

**Dubrovnik Tourist Board Information Centres**  
 Info uredi Turističke zajednice grada Dubrovnika

FILE: Brijuni 5, tel/fax: +385 20 312 011  
 GRUŽ: Obala Pape Ivana Pavla II 1, tel/fax: +385 20 417 983  
 LAPAD: Masarykov put 2, tel/fax: +385 20 437 460

[www.tzdubrovnik.hr](http://www.tzdubrovnik.hr)

**Last minute accommodation Dubrovnik**

Available on iTunes and App Store.

**CROATIA Full of life**

**DUBROVNIK**  
 Turistička zajednica grada Dubrovnika  
 Dubrovnik Tourist Board

Brsolje 5  
 HR - 20000 Dubrovnik  
[www.tzdubrovnik.hr](http://www.tzdubrovnik.hr)  
[info@tzdubrovnik.hr](mailto:info@tzdubrovnik.hr)  
 T +385 (0)20 323 887  
 F +385 (0)20 323 725



[www.tzdubrovnik.hr](http://www.tzdubrovnik.hr)



Turistička zajednica grada Dubrovnika  
 Dubrovnik Tourist Board



**DUBROVNIK**  
 Turistička zajednica grada Dubrovnika  
 Dubrovnik Tourist Board



# ドゥブロヴニク リビエラ 情報





# INDEX

4. ドゥブロヴニクの歴史について	36. ムリエト島
6. ドゥブロヴニクへのアクセス	40. 楽しみかたのいろいろ
8. どんな交通機関を利用するか	41. 礼拝に参加するには
11. 宿泊施設	41. ショッピング情報
13. お食事をするには	44. 泳ぎに行くなら
14. ドゥブロヴニク・カード	45. レクリエーションをお望みなら
15. 観光スポット	47. ウェルネス
25. 美術館	48. 子供向けのアクティビティ
32. ギャラリー	50. ドゥブロヴニクの年間行事
34. 街への入り口	52. 重要な連絡先



## BASIC CROATIAN

Good morning!	Dobro jutro!	おはようございます!
Good afternoon!	Dobar dan!	こんにちは!
Good evening!	Dobra večer!	こんばんは!
Good night!	Laku noć!	おやすみなさい!
Goodbye!	Doviđenja!	さようなら!
Good luck!	Sretno!	幸運を!
Yes	Da	はい
No	Ne	いいえ
Pardon	Oprostite	すみません
Excuse me	Oprostite	ごめんなさい
Thank you	Hvala	ありがとうございます
Please	Molim	お願いいたします
My name is...	Zovem se....	私は...です
What is your name?	Kako se zovete?	お名前は何ですか?
Where is...	Gdje je...	...は何処ですか?
I don't speak Croatian	Ne govorim hrvatski	クロアチア語は話せません

出版社：ドゥブロヴニク市観光局、Romana Vlašić, 写真：Zoran Marinović, Darko Vrbica, Miho Skvrce, Martin Jarić, Dubravko Lenert, Mario Romulić, Ivan Dimnjaković, Katija Živković, ドゥブロヴニク市観光局、ドゥブロヴニク・サマーフェスティバル文書、グラフィックデザイン：Darko Vrbica mr.art, 表紙のデザイン：Orsat Franković, 言語スーパーバイザー：Edouard Tripković Katayama, 印刷：ALFA-2, Dubrovnik, 2018年2月



地域面積 9288,69 キロ平方 (土地 1.780,86 キロ平方, 海 7.507,83 キロ平方)  
 人口 122.870  
 中心地 ドゥブロヴニク  
 国境 モンテネグロとボスニア・ヘルツェゴヴィナ (土地と海の国境)  
 イタリア (海の国境)  
 海岸線の長さ 1,024.63 キロ

ADRIATIC SEA

# 観光客の皆様、ようこそドゥブロヴニクへ！

この素晴らしいCity（こんなにスペシャルな街なので大文字のCを付けます！）ドゥブロヴニクを訪れる皆様にこのパンフレットをご覧いただければ、いつ、どこで、どんなことが楽しめるか、ドゥブロヴニクならではの楽しみ方がお分かりいただけます。この街の豊かな歴史に触れ、文化やエンターテインメント、スポーツ、ショッピングを楽しみ、そして近郊へ足を延ばしたり、美食を楽しんだり、世界で最も美しい街との出会いを満喫されることでしょう。皆様の参考になりますように、多くのインフォメーションをお伝えします。皆様のドゥブロヴニクのご旅行が素晴らしいものとなりますように願っています。

皆様のお出かけの前に、ぜひドゥブロヴニク・カードをご購入ください。このカードはドゥブロヴニク・ツーリスト・センター（TIC）をはじめ、皆様の宿泊先ホテル、または旅行会社で販売しています。オンラインでの購入も可能です。[www.dubrovnikcard.com](http://www.dubrovnikcard.com)

このカードがあると城壁観光、美術館やギャラリー入場の際にお得なディスカウントが受けられます。

さあ皆様、旅行にお出かけください。城壁の内側で今も歴史が紡がれています。そこに生きる人々の暮らしぶりをご覧になり、多くの旅の思い出を得られますように。

**素晴らしいご滞在をお祈りいたします！**

15世紀以上にも渡るドゥブロヴニクの長い歴史のなごりは、街のあらゆるところに残されています。皆様はきっと、まるで街全体が美術館のようだとお感じになることでしょう。しかしながらそこは、人々が今も日々の暮らしを営む場所でもあります。

街の特徴は、中世時代からの城壁に周りを囲まれていることです。城壁は2キロ程あり、そこを歩くと印象的な建物や細い裏通り、庭やテラスを見おろすことができます。城壁の反対側に目を移すと、そこには海が眺められます。海はこの街の歴史に大きく影響しました。

皆様がドゥブロヴニク全体の第一印象を得るのには、こうしてまずは城壁を歩くことが、最良の方法でしょう。

ドゥブロヴニクは1979年にユネスコ世界遺産として認められて以来、ユニークな文化が注目されています。多くの歴史的モニュメントがあり、様々な年中行事やお祭りが開催されています。それと同時に、ここはリラックスして休暇を楽しむ場所でもあります。浜辺でくつろぎ、温かく澄んだ海を眺めたり、喧噪を離れてカフェでゆったりとした時間を過ごしたり、裏通りにあるレストランで土地の名産品を味わったり、そんな過ごし方もお勧めです。

ドゥブロヴニクはこれのように実に魅力に富んだ街です。どうぞ皆様ご自分のお気に入りのドゥブロヴニクを発見され、再びこの街を訪れてくださるようお願いしています。



## Dubrovnik Card



1 day



3 days



7 days



# ドゥブロヴニク

## の歴史について

ドゥブロヴニクに人々が住み始めたのはいつ頃からなのかについては、歴史家のあいだでも意見が分かれています。考古学者の意見では、2世紀ごろにローマ帝国の軍事基地がこの地に作られました。その裏付けとして、5世紀から6世紀の間に建造されたローマ式ビザンチン様式の巨大な聖堂の遺跡が発見されています。従ってドゥブロヴニクは1600年の歴史を有することになります。

ドゥブロヴニクはアドリア海の東海岸に位置し、その地理的利点のおかげで何世紀にも渡って着々と開発が進められました。海運業の発展に伴い15世紀には3000隻の船舶、400万人の船乗りを抱える最盛期を迎え、当時海運業の雄であったベネチアと肩を並べる地中海の最大の港となりました。

そのかたわら、辛抱強い政治折衝が功を奏しドゥブロヴニクは利権を手中に収め、海運業と陸運業を統合して急速に巨万の富を得ました。

ドゥブロヴニクは10世紀には「独立都市」宣言をし、その数百年後には「独立共和国」を樹立しましたが、1808年にヨーロッパ全体の戦況（ナポレオン戦争による征服）に影響されました。

共和国の時代には統率する総督が在任しました。当時、政府は3つの委員会で構成されており、すべての議員はドゥブロヴニクの貴族階級の中から投票で選出されていました。庶民には選挙権はなかったものの、この小さな共和国では法の規範が守られ、庶民も安全で安定した生活を営むことができました。

公共施設として役所、保健所（13世紀）、下水設備（14世紀）、上水道（15世紀）、世界初の検疫所（14世紀）、高齢者や弱者のための施設（15世紀）などが造られました。共





和国政府はあらゆる芸術の庇護者でもありました。1106年の楽譜は、保存されている最古のもので、フランシスコ派修道院の薬局で見つかりました。この薬局は1317年に設立され、世界最古の3ヶ所の薬局のひとつです。ドゥブロヴニクの文学はクロアチア文学全体の大部分を占めています。最初に上演された屋外のショーは現代のオペラに似たものでしたが、役所から依頼された作家が脚本を書き、政府の建物の前で1552年に上演されました。その年はドゥブロヴニクに劇場が誕生した年でもあり、それらの劇場は今も使われています。劇場利用の1例は有名なドゥブロヴニク・サマーフェスティバルです。屋外で演劇が上演され、またあちこちの街角ではコンサートが開かれます。



クロアチア共和国は1991年に独立を宣言しましたが、後にセルビアに領土を侵略されました。ドゥブロヴニクは1991年10月に攻撃されました。セルビアとモンテネグロの軍はドゥブロヴニクの征服と破壊を企み、かつてないほどの軍力を投入しました。ドゥブロヴニクは旧市街とその周辺を除く全地域が占領され、略奪と激しい破壊行為を受けました。ドゥブロヴニクでは2万1000人の避難民が8ヶ月ものあいだ水や電力の供給なしで籠城し、その間も激しい爆撃を受け、人々は苦しみに満ちた生活を強いられました。しかしながらこの時もまた、人々は諦めてしまうことなく、強い心とたくましい精神力を決して失いませんでした。この時の人々の勇氣ある抵抗運動は、後にクロアチア独立を世界が認めるにあたり、最高の助けとなりました。



# ドゥブロヴニク

## へのアクセス

### 空路で行く。

ドゥブロヴニク空港は街から約20キロのところにあります。空港到着の際は、どの到着便にも時間を合わせたドゥブロヴニク旧市街行きのバスをご利用になれます。出発の際は グルージュのバス・ターミナルから空港行のバスをご利用になれます。国内便なら1時間半前にはバスにお乗りください。通常の国際便ご利用の場合は、フライトの出発時間に合わせたバスが2時間前にターミナルを出発します。

タクシーはいつでもご利用になれます。

### 自動車で行く

ドゥブロヴニク近郊にはガソリン・スタンドが数か所あります。一部のスタンドは24時間営業です。シティー・マップにガソリン・スタンドの場所が記されています。

### 駐車場について

旧市街をご自分の自動車で訪れる場合は、イリイナ・グラヴツァ (住所: Zagrebačka ulica bb) の立体駐車場のご利用をお勧めします。24時間営業で711台の駐車スペースがあります。その駐車場からボギシッチ公園を横切るか、あるいはペロ・ブドゥマニ通りを歩くと、わずか5分で旧市街にたどり着きます。

路上の駐車スペースはサイン表示されていて、駐車料金や支払い方法について説明されています。駐車料金の支払いには、キオスクやパーキング・メーターで販売されている駐車クーポンをお使いください。駐車クーポンには必要事項を正確に記入し、自動車のフロント・ガラスに置いてください。コイン式のパーキング・メーターを利用する場合は、お釣りが出ませんので、必要な金額のコインを前もってご用意ください。時間制限付き駐車スペース以外の場所に駐車する場合は、有効な駐車チケットをフロント・ガラスに置いてください。

グルージュ港の公共駐車場 (住所: Obala pape Ivana Pavla II 1) も24時間ご利用になれます。駐車場についての詳しいお問い合わせはこちらへ。 [www.sanitat.hr/en/](http://www.sanitat.hr/en/)。

### 船で行く

ドゥブロヴニクから他のクロアチアの港へ行くのに、またイタリアのバーリへ行くのにとっても便利なフェリー便や双胴船の便があります。近隣の島々へ行くのに毎日複数回の船便があります (コロチェブ島、ロプドゥ島、シパン島、そしてムリエト島行は毎日。コルチュラ島とラストヴォ島行は季節による)。グルージュ港は旧市街から3キロ、徒歩で30分のところにあります。道沿いにはヤドゥロリニヤ社 (Jadrolinija)、フェリー一切符売り場、銀行、ATM、両替所、駐車場、食料品店、スーパーマーケット、スルジュ



百貨店、屋外の青物市、ペトゥカホテル、会社、レンタカー店、レストラン、カフェ、そしてドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センター (TIC) などが軒を連ねています。旧市街から港までは徒歩ですと30分ですが、公共バス (オレンジ) を利用すると1a番、1b番、1c番、3番、そして8番のバスで10分ぐらいかかります。バス・チケットはバスの中で15クーナで販売しています。または新聞販売キオスクで買うと12クーナです。港の入口にはタクシー乗り場があります。

## バスに乗る

ドゥブロヴニクのバス・ターミナルはグルージュにあり、港の近くです。そこにはインフォメーション・オフィス、予約オフィス、遺失物係、タクシー乗り場、キオスクがあります。

国際バス路線便は毎日ではありませんが、ドゥブロヴニクからクロアチア国内の主要都市に行くバスは毎日運航しています。バス路線の中にはバス・ターミナルに停まるものもあります。



# どんな 交通機関を利用するか

## 公共バス利用について



ドゥブロヴニク滞在中は公共バスの利用をお勧めします。リベルタス公共バス社の空調の効いたバスは快適です。バスの車体はどれもオレンジ色なのですぐにわかります。市内はバス路線が網羅され、どのバス停にも時刻表が掲示されています。時刻表はツーリスト・オフィスやホテルでも配布しています。オンラインでも入手できます。

[www.libertasdubrovnik.hr](http://www.libertasdubrovnik.hr)

バス・チケットは乗車時にドライバーから15クーナで買うことができます。キオスクでは12クーナで販売しています。それ以外にもピレ門のリベルタス社チケット・カウンターでも、バス・ターミナルでも、そしてモコシツアのホテルや旅行会社でも販売しています。

バスの中でチケットを買う場合は、お釣りがもらえないのであらかじめ必要な金額を用意してください。バス・チケットは乗車してから1時間以内なら何度でも乗り換えに利用できます。1日乗車券は30クーナです。

磁気カードを使うときは、表側を上、磁気部分を自分の側にしてバスの自動改札機に差し込みます。読み取ったあと磁気カードは戻ってきます。接触しなくても読み取れるタイプのバス・チケットを使う場合は、センサー部に当てるだけです。

## 自動車、スクーター、バイク、船をハイヤーする



ドゥブロヴニクにはハイヤー・サービスの会社がたくさんあります。自動車はもちろん、スクーターや自転車や船をレンタルすることもできます。乗り物をレンタルすれば、ドゥブロヴニク近郊を散策したり、近隣の田舎を自由に訪れることができます。たいていの会社ではレンタル手続きの際、クレジットカードと国際運転免許証の提示が必要です。50 cc以上の自動2輪車をレンタルするにはカテゴリーA の運転免許が必要です。船をレンタルする際は有効な船舶操縦免許証が必要です。

## タクシーを利用する



タクシー乗り場は街の繁華街にあります(シティー・マップをご覧ください)。タクシー料金はサインとともに分かりやすく表示されます。乗車の時からメーターをスタートしますが、もしそうでなかった場合は、旅行者はタクシー料金の支払いを拒否できます。たいていのタクシーには4名が乗車できます。万が一何か問題になるようなことが起きた場合は、有効なスタンプが押され、自動車ナンバーの記載されているタクシー料金のレシートを運転手から受け取っておいてください。ドゥブロヴニクにはタクシー会社が3社あるので、もしも問題が起きた場合はその会社を調べる必要があります。

街をタクシーで回って素晴らしい景色を楽しみたいとお思になるかもしれませんが、そういったドライブのルートとしては、たいていグルージュ港やラパドゥ、リエカ・ドゥボロヴァチュカ、





そして島々を眺められる新しい橋を渡ります。アドリア・ハイウェイをドライブすると街全体を眺めることができます。そしてスルジュ山（標高415メートル）の頂上からは、ドゥブロヴニクそして周辺の全容が眼下に見おろす、素晴らしい景色がお楽しみいただけます。

ドライバーと交渉のうえ半日、あるいは一日自動車をチャーターしてドゥブロヴニク近郊を訪れるドライブ旅行もお勧めします。

[www.taxi-dubrovnik.hr](http://www.taxi-dubrovnik.hr), [www.taxi-ragusa-dubrovnik.com](http://www.taxi-ragusa-dubrovnik.com), [PlaviTaxiDubrovnik](http://PlaviTaxiDubrovnik)

## ロクラム島への船便



自然保護区のロクラム島は、人気のハイシーズンには旧市街の港から島のポルトチュ湾まで30分おきに船が出ています。所要時間は10分程です。乗船券は船の傍にある棧橋のスタンドで購入できます。[www.lokrum.hr](http://www.lokrum.hr)

悪天候の場合は船が運休することがあります。

## エラフィテ群島への船便



エラフィテ 群島（コロチェブ島、ロブドゥ島そしてシパン島）への船便はグルージュ港から出港します。時刻表はヤドゥロリニヤ・オフィス（乗り場付近）、ドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センター（TIC）で配布しています。オンラインでも入手できます（[www.jadrolinija.hr](http://www.jadrolinija.hr)）。旅客フェリーが1日に4便運航しています。自動車利用者のためのカー・フェリーは1日に1、2便運航しています。日曜日や祝日には運航スケジュールが変更されます。

## ムリエト島への船便



ムリエト島へは双胴船、ノーナ・アーナで行くことができます。船はソブラで停まり、人気のあるハイシーズンにはムリエト国立公園の近くのボラチェにも停まります。詳しい情報はG&V 汽船会社に問い合わせてください。[www.gv-line.hr](http://www.gv-line.hr)

7月と8月には船はコルチュラやラストヴォまで行きます。ヤドゥロリニヤのカー・フェリーはソブラからペリエシャツ 半島（本土）のブラプラトウノまで1年中運航します。詳しい問い合わせはこちらへ。[www.jadrolinija.hr](http://www.jadrolinija.hr)

## ムリエト島、コルチュラ島、ホウヴァル島、ブラチュ 島、そしてスプリト



高速の双胴船のクリロ・スターとクリロ・エクリプセがグルージュから、5月から10月には週に3回から4回運航します。人気のハイシーズンには毎日運航します。乗船券はオンラインで購入できます。また市内の旅行会社でも販売しています。<http://www.krilo.hr>

ヤドゥロリニヤ社は6月から9月末まで毎日、ドゥブロヴニクからコルチュラ島、コルチュラ島、ホウヴァル島、ブラチュ 島、そして スプリト島行きの双胴船を運航しています。



# 宿泊施設

ドゥブロヴニクには、キャンプ場、快適な貸し部屋から高級な5つ星ホテルまで、様々なタイプの宿泊施設があります。宿泊施設を選ぶときには市内のどの地域に滞在したいかもお考えください。

## ホテル

クロアチアの他の地域と同様に、ドゥブロヴニクにおいてもホテルは2つ星クラスから5つ星クラスまで4段階あります。ドゥブロヴニクのホテルはとても高級で、クロアチアの中で最も洗練されています。最高級クラスの豪華なスイート・ルームから中級クラス、スタンダード・クラスまで、様々なクラスがある中からお選びいただけます。小規模なホテルでも親切なサービスが受けられます。ユース・ホステルも数軒あります。

## 私営の宿泊施設

### もしくは

### B&B、ホステル、ゲストハウス

ドゥブロヴニクにはたくさんのバケーション・レンタルやコンドミニウム、貸し部屋があります。宿泊料金がお安いうえに、このような宿泊施設では地元の人々のような暮らし方が体験できます。質が良く清潔で快適な貸しマンションやコンドミニウムは、家主の住まいから完全に独立しており、プライバシーが保たれた部屋や建物が提供されます。このような宿泊施設は旅行会社やインターネットの予約サイトで探すことができます。「ラスト・ミニット・ドゥブロヴニク」では、宿泊施設の空き状況を調べることができます。ドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センターでは宿泊施設の斡旋はしませんが、ウェブサイト上で閲覧できる宿泊先リストを提供しています。[http://www.tzdubrovnik.hr/lang/en/news/ad\\_smjestaj/index.html](http://www.tzdubrovnik.hr/lang/en/news/ad_smjestaj/index.html)

## 大切なお知らせ

滞在登録を必ずしましょう。滞在税、通過税の課税制度により、クロアチア人も外国人旅行者も納税が義務付けられています。安全で質の良い宿泊施設の利用のためにも滞在登録は大切です。もしもクレームがおありの場合は旅行業監査部に電話してください。

電話番号 +385 20 351 048

## オート・キャンプ

ドゥブロヴニク近郊の海沿いには、自然を楽しむ人にぴったりの小規模で魅力的なリゾート地があります。ドゥブロヴニクの市内にも、ラパドゥ地区にソリチュード・キャンプ場があります。このキャンプ場は旧市街からバスでわずか15分のところにあり、浜辺やホテル、散歩道などの緑あふれる地区です。トレーラーハウスやキャンピング・カーが停められる駐車場があるのはグルージュ港だけです。駐車料金は時間制、または日数制です。

## 大切なお知らせ

許可されたキャンプ場以外の場所でキャンプをしたり、トレーラーハウスやキャンピングカーを駐車すると罰金が科せられます。ドゥブロヴニクでは一般の駐車場や一般道沿いでキャンプをすることは禁じられています。

## ヨットで旅する場合

ドゥブロヴニクの海をヨットで旅すれば、島々の美しさにすっかり魅了されることでしょう。クルーズや探検を楽しんだり、一年中催されているヨット・レースに参加したり、ヨットの旅を愛する人々も素晴らしいホリデーを楽しむことができます。セーリング後マリーナに入港すれば、水や燃料、食料などヨットの旅に必要な品物が補給できます。必要なサービスも受けられます。

ドゥブロヴニクACI マリーナはリエカ・ドゥオロヴァチュカ (コモラツ) にあり、年中無休です。グレージュ港入口から2キロ、旧市街からは6キロの場所にあり、380のウェット・バース、140のドライ・バースが用意されています。マリーナから市内中心地までは便利なバス便があります。

注意：クロアチア共和国の領海を航海する場合、船長は最も近い港に入港して入国手続きを済ませ、航海費と航海税を支払うことを義務付けられています。グレージュ港では年中無休で入国手続きができます。また人気のシーズンにはツァヴタトでも入国手続きができます。

大型ヨット用の停泊バースはグレージュ港にあります。オルサン・セーリング・クラブのバースは基本的にクラブの会員専用です。INA給油所は一般の船も利用できます。



# お食事 をするには

まずは市内の市場へ行きましょう、ドゥブロヴニクの美味しい料理はシンプルです。たいていは数種類のスライスでアクセントを添えただけの、自然な味わいを生かす料理法です。

高名なシェフが地元のファーマーズマーケットへ行くと、ジュバ・ドゥブロヴァチュカ、コナヴレ、プリモリエなどの近郊地域で採れた農作物の素晴らしい味と香りに驚くといえます。

肥沃な農地、豊かな陽光に恵まれて、この地域では多くの種類の野菜と果物、たとえばアーティチョーク、ナス、マメ、ズッキーニ、ズッキーニの花、様々なキャベツ、ザクロ、メロン、イチジク、ブラム、そして土地の名産品「クリバヤ」と呼ばれるブドウが生産されています。

地方の小さな食堂で伝統的な料理を味わうとしたら、おいしい燻製ハム、チーズのオイル漬け、タコのサラダ、ゼレナ・メネストラ（塩漬け肉の燻製とキャベツのシチュー）、スポルチ・マカロニー（仔牛肉のスライス煮込み）、ニシンのフライ、イワシのグリルなどが召し上がれます。高級レストランでは、クリエイティブ若手なシェフ達がアドリア海産のとても新鮮なシーフードや、世界的に有名なマリ・ストーン産のオイスターを調理しています。肉料理についても特別な料理があります。ドゥブロヴニクの美食が変化しつつあるのは、ヨーロッパの影響を受けた若いシェフ達が、従来の郷土料理にアレンジを加えているからです。フュージョン料理や韓国料理、ボスニア料理、イタリア料理、インド料理、日本料理、メキシコ料理、タイ料理などの国際色豊かなレストランも旧市街地区や近隣の街に増えています。

ドゥブロヴニクでの最高のお食事は「アル・フレスコ」の、美しいテラス席やロマンチックな広間でお楽しみいただけます。ライブ音楽を聴きながら、素晴らしいクロアチア産ワインをご賞味ください。ワイン・バーはワイン好きの人々にも人気がありますが、クロアチア・スタイルのおつまみを楽しみながら赤や白のワインを召し上がってください。ドゥブロヴニク地域のワインとして良く知られているのは、ペリエシヤツ半島産の赤ワイン、ブラヴァツ・マリのワイン各種、コルチュラ島産のポシブの白ワインなどです。マルヴァジャ産ワインは歴史的に「神の果汁」と呼ばれています。またコナヴレ地方には南部独特のフレーバーが楽しめるワインもあります。

年間を通じてグルメ・イベントを紹介するウェブサイトがあります。[www.tzdubrovnik.hr](http://www.tzdubrovnik.hr)

10月末には有名なドゥブロヴニク・グルメ・フェスティバルが開催されます。





# ドゥブロヴニク・カード

ドゥブロヴニク・カードをお持ちになると、様々なディスカウントやサービスが受けられ、ドゥブロヴニクやツァヴタトでの楽しみが一段と充実します。ドゥブロヴニクでの滞在期間によって、1日券、3日券、7日券の3種類からお選びください。1日券では最も人気のある歴史的名所9ヶ所の入場ができます。3日券と7日券では文化的モニュメント10ヶ所と、最も人気のある名所9ヶ所、そしてツァヴタトの美術館1ヶ所に入場できます。

ドゥブロヴニク・カードを購入すると市内全域で使えるバス・カードがもらえます。また3日券、7日券を購入すると近郊でバスに乗れるクーポンがもらえます。

提携店でお買い物をするときにドゥブロヴニク・カードを見せると、ディスカウントが受けられます。提携店にはレストラン、店、お土産店、宝飾店、旅行会社などがあります（ドゥブロヴニク・パートナー・カード）。



# 観光スポット

ほとんどの歴史的な建物や建築物、文化的施設は城壁の内側に集まっているので、徒歩で巡ることができます。しかし地元のカルチャーに特に興味があるのなら、ストラドン地区を散策し迷路のような裏通りをぶらついて、アイスクリームを食べたり、コーヒーを飲んだりするのも面白いでしょう。

## 城壁と要塞

ドゥブロヴニクを訪れる観光客なら誰もがドゥブロヴニクの城壁を眺めることでしょう。これはヨーロッパでもっとも保存状態のよい要塞です。全長1940メートルの壁には5ヶ所の要塞と16の塔や警固所があります。城壁は1年中訪れることができます。入口は3ヶ所で、東側は聖ロカ教会（ドミニカ教会の向い）の隣にひとつ、オノフリオ大噴水の向いの聖サヴィウール教会の隣にもうひとつ、そして聖ヨハネ要塞の海事博物館の隣にもあります。

城壁に沿って歩くと城壁の建築構造が分かり、とても興味深く思われることでしょう。要塞は5ヶ所あり、ミンチェッタ、ボカール、聖ヨハネの3ヶ所は城壁の一部になっています。他の2ヶ所、西側のセント・ローレンス、そして東側のレヴェリンは城壁の外側に造られた防衛のための要塞です。ミンチェッタ要塞は街で一番高いところにあり、北側からの攻撃からドゥブロヴニクを守っていました。要塞はドゥブロヴニクの防衛のシンボルであり、そこにはクロアチアの国旗がいつも掲げられています。夏になると、そこにはドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルのリベルタスの旗も合わせて掲げられます。南西方向にはボカール要塞、またの名をズヴィエズダンが、湾を挟んでセント・ローレンス要塞と向かい合って城壁の角を守っています。この要塞は小さな湾や城壁の周りの壕、ピレ橋を守るために16世紀に造られました。現在、要塞はドゥブロヴニク地域の岩石破片の保存の場所とされています。聖ヨハネ要塞は1346年に、中庭を囲む形の要塞として初めて建築され、湾の南東方面を防衛しました。湾の入り口へと鎖が張られ、敵の侵入を防ぎました。要塞基地の1階には水族館があり、2階と3階は海事博物館となっています。聖ヨセフ要塞のふもとには灯台のある埠頭があり、そこはポルポレーラと呼ばれる恋人たちのデートの場です。散歩道があり、夏には旧市街の人々が水泳を楽しむ場所でもあります。ポルポレーラからは城壁の外、東の入り口にそびえ立つレヴェリン要塞が眺めることができます。石と木でできた跳ね橋が壮大な要塞基地と陸地とを繋いでいます。またもう1ヶ所では石の橋が要塞基地と街を繋いでいます。要塞基地は3方を壕で守られ、残る1方は海に面しており、難攻不落の街の1部分を占めています。初期のころに建造されたレヴェリン要塞が現在の姿になったのは16世紀のことです。ドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルでは、砦の中やテラスでドゥブロヴニク・シンフォニー・オーケストラが演奏会を催します。ザ・カルチャー・クラブ・レベリンはお洒落なクラブ・ミュージックが聴ける場として世界的に知られています。



## セント・ローレンス要塞 (ロヴリエナツ)

セント・ローレンス砦は旧市街の西側の高さ37メートルの岩山の上にあります。海からの攻撃から街を守った要塞基地であり、西側のピレ 門を防衛した、戦いと自由のシンボルです。要塞基地の入り口の頭上には名高い句が掲げられています。NON BENE PRO TOTO LIBERTAS VENDITUR AURO (たとえ世界中の黄金を差し出されても、自由を売り渡しはしない)。

要塞基地についての最も古い記載は1301年ですが、もっと昔に建造されたと考えられています。現在、セント・ローレンス要塞はドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルの屋外のメイン・ステージのひとつであり、シェイクスピアのハムレットの上演にもっともふさわしい劇場として世界的に有名です。デンマークの不運な王子の役を演じて、ラデ・シェルベジヤ、ダニエル・デイ=ルイス、デレク・ジャコビ、そしてゴラン・ヴィシユニッチなどの有名な俳優達がこのテラスに登場しました。



## ストラドゥン (オノフリオ大・小噴水、オルランド、鐘楼とブロンズ像、旧総督邸、スポンザ)

何世紀にも渡り城壁には2ヶ所の入り口がありました。(東にはプロチェ門、西にはピレ門)、そして北側の第三の入り口は19世紀に開けられたものです。) 夜には跳ね橋は上げられ、招かれざる者の侵入を防いでいました。ゲートを入るとブラーツァあるいはストラドゥンと呼ばれる大通りが続いていました。ドゥブロヴニクの広々とした屋外広場は散歩の、あるいは、人々の集まる場所として人気があります。大規模なフェスティバルやパレードも開催されます。ストラドゥンはショッピングの中心地でもあります。広々とした美しい大通りが旧市街を南北に分けています。ストラドゥンの起源は12世紀にさかのぼります。入植地と本土とを隔てていた浅い海峡が埋め立てられてストラドゥンができました。ブラーツァはむしろ「ストラドゥン」の名で知られています。城壁の一部ができたことによって12世紀末に両方の入植地がひとつの街に統合されましたが、その当時からブラーツァは重要な役割を果たしていました。ブラーツァという地名は、ラテン語の「プラテア・コムニス」つまり「屋外の公共広場」に由来しています。「ストラドゥン」はよく知られたニックネームですが、ベネチアの「広い道」という意味から生まれた呼び名です。オノフリオ大噴水はストラドゥンの西の端にあり、製





作者のオノフリオ デザ・カヴァの名前にちなんで名付けられました。彼は建築家でもあり1438年に完成した1.7キロに及ぶドゥブロヴニクの水供給設備を計画しました。もう1つの小さな噴水もオノフリオが手がけたもので、ストラドゥンの反対側の端、鐘楼の近くにあります。暑い夏の日、熱せられたスレート瓦屋根の上空に鐘楼の鐘が鳴り響くとき、大小の噴水の冷たい水はとても気持ちがよく、生き返る心地がします。

鐘楼は高さ31メートル、1444年に建てられました。1509年にはフィエソーロの有名な鍛造家ミシエル・ディ・ジョヴァーニーが巨大な鐘を鍛造しました。また彼は2人の兵士のブロンズ像を作りました。このブロンズ像はパーロとマーロと名付けられ、ドゥブロヴニクの緑色の像として知られてい



ます。パーロとマーロの仕事は鐘を鳴らして時を告げることです。鐘は毎時3分間鳴らされ、毎時30分には1度だけ鳴らされます。鐘楼とスポンザ 宮殿の間にあるのはルジャです。これは屋外にある鐘で政府の会議の時に鳴らされ、警報としても使われます。ルジャは1463年に建造され、1952年に大規模修復が行われました。スポンザ 宮殿はルジャの左側にあり、現在も建築当初のゴシック・ルネッサンス様式の姿を留めています。ドゥブロヴニク共和国の時代には倉庫や税関事務所として使われたのでディヴォーナと呼ばれていました。(税関という意味の言葉)。スポンザ 宮殿はドゥブロヴニクの名工であるボスコイェ・ミリチェヴィッチによって設計され、造幣局、財務省、大蔵省として使われました。

現在、スポンザ 宮殿はドゥブロヴニクの公文書館として使われており、12世紀以降ドゥブロヴニク共和国の陥落までの古文書を保管している、世界でも最も重要な公文書館のひとつです。特に重要なのは法律関連の膨大な文献です。そのなかには1272年のドゥブロヴニクの法律書の原本があります。オスマン帝国時代以来の膨大な蔵書は最も重要な歴史的遺産です。

オランダ円柱は中世の騎士が剣を手にしている像です。ゴシック様式の特徴的な微笑みをうかべ長い縮れ毛に顔を縁取られている騎士は、ヨーロッパの十字軍英雄像のなかでも最もハンサムであると言われています。1418年に交わされた契約により、この円柱はミラノの名工、ポヌーノによって作られ、ドゥブロヴニクの名工の協力のもとここに展示されました。オランダ円柱はドゥブロヴニ



クが独立した国家であることのシンボルです。円柱の上にはかつてはドゥブロヴニク共和国の国旗が掲げられていました。現在ではクロアチア共和国の国旗も掲げられ、フェスティバル期間にはセント・ブレイズの旗がドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルの旗が期間中45日間掲げられます。

## 教会や修道院

(聖人ブレイズ、フランシスコ会修道院、カテドラル、聖人サヴィウール、ドミニコ会修道院)

ドゥブロヴニクのパトロンであった聖人ブレイズのために建築された、このバロック様式の教会はオランダの像に向かい合っています。1715年、ベネチアの名工マリーノ・グロベツリー によって建てられました。その場所にはかつては聖人ブレイズのためのロマネスク様式の教会がありました。15世紀に造られた、ゴシック様式の聖人ブレイズ の彫像が教会の中央祭壇にあります。この彫像はド



ゥブロヴニクの金細工師の作品です。彫像は左手に街のひな型を持っています。このひな型は、1667年に壊滅的な地震で失われる以前、街がどんな姿であったかを知ることができるという歴史的価値のあるものです。

聖人サヴィウールに捧げられた小さな教会は、ストラドゥン の西、オノフリオ大噴水の反対側にあります。大地震にも関わらず街全体の破壊を免れたことについて神への感謝感謝が込められた教会で、1520年に元老院からの命によって建てられました。教会の正面の壁にはこのことを記した額が掛けられています。この教会はコルチュラの名工ペタル・アンドリイチによって建てられ、1667年の破壊的な大地震にも耐えました。現在も竣工当当時の姿を留め、ドゥブロヴニクにおけるルネッサンス建築の素晴らしい一例となっています。現在、この教会はコンサートや展覧会の会場として利用されています。

旧薬局 はフランシスコ会修道院の中に1317年に開かれたという史料がありますが、そのほかの記録はほとんど残っていません。元来は修道士のために設けられた薬局でしたが、時が経つにつれ、博愛精神や慈善精神により一般にも門戸が開かれました。1317年以来薬局として利用されており、これは世界最古の薬局のひとつです。そこで提供される薬は昔ながらの製法によるもので、今も旅行者に人気があります。この薬局はバロック様式の教会の回廊にあります。回廊の柱頭にはロマネ



スク様式の動物がデザインされています。中にはルネッサンス様式の美しい広間があり、音楽関連の古文書や金製・銀製の美術品が所蔵されています。

「聖母被昇天」のドゥブロヴニク・カテドラルは18世紀初頭から現在の場所にあります。史料によると、以前にあったロマネスク様式のカテドラルは、彫像で飾られた円天井のある豪華な教会でした。伝説では、この教会を寄進したのは英国の獅子心王、リチャード1世であったと言われています。彼は1192年に第三次十字軍遠征からの帰途、ロクルム 島付近で難破しかけたところを危うく助けられました。1981年にカテドラルの修復が行われたとき、もっと以前に造られたバシリカ風教会堂やカテドラルが発見されましたが、それらは5世紀、6世紀のころの建築様式でした。この発見によってドゥブロヴニクの歴史的起源についての考え方が変わりました。発見された遺物によると、6世紀ごろにはすでに都市コミュニティとしての街の形成が始まっていたと思われます。現在、カテドラルは絵画や記念品が展示されています。1552年からは、ティツィアーノの描いた3連祭壇画、「聖母被昇天」が展示されています。



聖ドミニコ教会は、クロアチア海岸におけるゴシック様式の宗教建築物の中で最も大きい教会です。建築はシンプルでゴシック様式の丸屋根があり、中央会衆席はひとつしかありません。他の部分とはゴシック様式の通路で隔てられており、吹き抜けが3ヶ所あります。中央祭壇の上の通路には、非常に価値のあるパオロ・ヴェネツィアーノ作のキリスト受難像が1314年からあります。ドミニコ会修道院には15世紀、16世紀のボジダレヴィッチ、ハムジッチ、そしてドブリチェヴィッチといった、ドゥブロヴニク派画家による絵画を所蔵しています。またティツィアーノの描いた、ドゥブロヴニクのパトロンであった聖人ブレイズ、聖女マグダラのマリア、大天使ラファエル、そしてトビアスの肖像画も所蔵しています。重要な古文書、初版本、草稿、11世紀の聖書、ドゥブロヴニクの金細工師による宝飾品も展示されています。





## 広場（ドゥルジッチ、グンドウリッチとボシュコヴィッチ広場）

街の大通りやストラドゥンを散策すると、あちこちの広場に行き着きます。カテドラルの正面にあるマリン・ドゥルジッチ広場はカルメン地区に続き、港や水族館へと至ります。地元の人々はよくそれを「マリア様の前で」と言います。広場を取り囲んでいるのは、ドゥブロヴニク・カテドラル、ソルコチェヴィッチ 邸、聖パーソロミューの小さな教会、ドゥルチッチ・マスレ・プティカ アートギャラリー、そしてアメリカ合衆国商務長官であったロナルド・ブラウンの記念館です。ブラウン氏が率いた平和的チームは1996年4月3日に聖人ジョン丘陵（ドゥブロヴニク空港付近）にて飛行機墜落事故に遭い、生存者はいませんでした。

この広場は、1508年にドゥブロヴニクで生まれ、1567年にベネチアで死去したマリン・ドゥルジッチの名前にちなんで名づけられました。彼は劇作家であり、詩人であり、教会のオルガン奏者でもありましたが、陰謀を企んでいた人物だとも言われています。彼はドゥブロヴニクとイタリアで学業を修め、1541年にはシエナ大学の学長に任命されました。1566年、彼はドゥブロヴニク共和国政権の転覆を図り、フィレンツェでコシモ・メディチ に近づきました。彼の考えは、ドゥブロヴニクの上流階級から特権を奪い取り、一般庶民が政治に参加できるような新しい制度を作ることでした。彼は、愛、青春への郷愁、貪欲、狡猾、強欲など様々な普遍的なテーマで作品を著しました。彼の演劇は人間の生きるたくましさに溢れています。最も有名な作品として「ティレナ」、「グリジューラ」、「ビーナスとアドニス」、「ストラナツ物語」、「守銭奴」と「ヘクバ」などが挙げられます。彼の代表作である喜劇、「マーロイエ 叔父さん」は、善人も悪人も本質的に違いのない平等な世界を仮定し、金銭があればなんでも手に入る、愛までも得ることができるという社会を描いています。



ドゥブロヴニクの詩人、イヴァン・グンドウリッチ（1589年ドゥブロヴニク生まれ、1638年没）の像はグンドウリッチ 広場にあります。故郷で教育を受けた後、彼はコナヴレの総督に2度任命され、上院議員、代議士を務め、ボスニアのパシャ公使となりました。彼の作品にはカトリック宗教改革の精神が表われており、人の生活がいかに不安定であるかを主題にしています。グンドウリッチの最もよく知られている作品は「放蕩息子の涙」（1622年ベネチアで執筆）や「ドゥブラヴカ」（1628年にドゥブロヴニクで初演）、そして「オスマン」（1826年に再刊）です。彼は死後、フランシスコ教会に葬られました。この教会は1667年の壊滅的な大地震のあとに建てられたもので、教会の図書館には1652年の最古の「オスマン」や1826年にドゥブロヴニクで印刷された作品が大切に保存されています。この広場では野菜のマーケットが開かれ、近郊の農家の農作物が毎朝売られています。広場の南側にはバロック様式の階段があり、上にあるルジェル・ボシュコヴィッチ広場へとつながっています。この階段は1738年にローマの建築家、ピエトロ・パサラクア によって造られました。ローマのトリニタ・デイ・モンティ教会の有名なスペイン階段を思い出させるデザインです。この広場で目に付く建物は、聖イグナチウスのイエズス会教会、そしてコレジウム・ラグシヌム（有名なイエズス会の学校）です。この街並みはダルマチアにおいて最も洗練されたバロック建築だと考えられています。この教会は有名なイエズス会の建築家、イグナツィオ・ポーゾ によってデザインされ、1725年に完成しました。教会内部にはガエタノ・ガルツィア の描いたイエズス会の創設者、聖イグナチウスの生涯を描いただまし絵のフレスコ画が飾られています。教会の横にはイエズス会の学校の建物があります。そのデザインはシンプルで、きりっとした輪郭はバロック様式建築の特徴を示しています。下にあるグンドウリッチ広場へとバロック様式の階段が続きます。

## トウルステノ 村

この村はドゥブロヴニクから20キロ程の所にあり、その地名はクロアチア語でサトウキビを意味するトゥルスティカという言葉に由来しています。新鮮な水に恵まれたおかげで多くのサトウキビが栽培されています。樹齢400年を超えるプラタナスの巨木が2本、中央通りの右手の小さな広場に植わっていて、このプラタナスはこの種類ではヨーロッパで最大だと言われています。村の一番の見どころは素晴らしいトウルステノ 樹木園です。このような屋敷はクロアチアのアドリア海岸では他に例を見ません。歴史的な庭園や地中海や異国からの膨大な植物を有する樹木園 は1948年にドゥブロヴニクの貴族、グチェティッチ=ゴゼー家の夏の別荘として造られました。樹木園はメモリアル・ガーデンとして保護されています。25ヘクタールの敷地はいくつかのユニットに分けられていて、夏の別荘と歴史あるルネッサンス様式の庭園、19世紀から20世紀にかけての歴史あるネオ・ローマン庭園、古いオリーブの木立、自然な状態で育ったオークの木々、アルプス松、杉の木、マッキアそして海岸の岩などで構成されています。イヴァン・マリノヴ・グチェティッチ=ゴゼー はルネッサンス時代、1494年にトウルステノ の領地に夏の屋敷を建てました。その領地はすぐにドゥブロヴニクやその周辺の人文学や文化の中心となりました。この牧歌的な田園屋敷にドゥブロヴニクや諸外国から多くの詩人が集まり、人文主義者、哲学者たちが著作を綴り、人間の本質についての真剣な論議を続けていました。中でも特筆すべきは詩人のツヴィエータ・ズリッチ でした。彼女は大変美しい女性として外国でも知られており、その評判はルネッサンス期のクロアチアに留まりませんでした。庭園には目を引く噴水があり、その水は噴水の14もの石のアーチを超えて70メートルの水路を流れていました。1736年にこのルネッサンス様式の噴水は、豪華なバロック式の妖精像と海の神、ネプチューン像を中心とした石像群に変えられました。



## エラフィテ群島

13の島々からなるエラフィテ群島はドゥブロヴニクの北西にあります。主な3つの島々、コロチェプ島、ロブドゥ島、そしてシパン島には大昔から人々が住んでいました。島にはイリュリア人の住居跡やギリシヤやローマに由来する地名があります。この島々は11世紀から国が陥落するまで、ドゥブロヴニク共和国の領土でした。島々の初代総督は1272年に任命されました。15、16世紀のドゥブロヴニクの黄金時代、これらの島々も繁栄し、現在よりも多くの人口がありました。

グルージュ港からの船便、フェリーを利用すれば、日帰り旅行でも島を2箇所訪れることができます。

穏やかで美しい風景を楽しめる場所として、コロチェプ島の古いクロアチア教会、ロブドゥ島のシュニユの砂浜、シパン島のスジュラジュにあるシュコチプハ・スティエパノヴィッチの夏の屋敷などがあります。スジュラジュ から ルカ・シパンスカ村へと5キロにわたる肥沃な谷間の



道を歩いたり、バスに乗ったりして楽しめます。ルカ・シパンスカ村には旧総督邸や聖ステファン教会があります。新鮮な海の幸や野菜料理、果物、チーズ、オリーブオイル、そして地元産のワインを出す小さなレストランがあります。

ロブドゥ島には別の楽しみ方もあります。村から少し歩いたところに「Your Black Horizon」と名付けられた芸術作品の展示があります。これはデンマーク・アイスランド出身の芸術家オラフル・エレアッソンとロンドンの建築家デビッド・アジャイの共同作品展です。





## スルジュ山の眺望と美術館 ケーブル・カーに乗って

高さ415メートルのスルジュ山頂上からは旧市街や周辺の島々がよく見え、素晴らしい眺望を楽しめます。タクシーで行くこともできますが、街からもすぐにケーブル・カーに乗ることができます。また徒歩で行くこともできます。頂上にはカフェやレストランがあり、ナポレオン時代の要塞は1991年から1995年にかけて行われた戦争の記念館となっています。頂上には石で作られた十字架が立てられています。これはダルマチアの島、ブラチュ産の石でできており、ブラチュ-ホウヴァル 教区から寄付されたものです。90年代の戦争で破壊されましたが、かつても同様の十字架がここにありました。

ケーブルカーは1969年に造られました。戦争で完全に破壊された後、2010年に再建されました。ふもとの駅は旧市街から徒歩数分のところにあり、ブローチェ門またはボシュコヴィツェヴァ通り（鐘楼から4番目の通り）の階段の上にあります。ケーブルカーは30分おきに出発します。ハイシーズンの場合、下りのケーブル・カーの最終便は夜中の12時です。他の時期にはもう少し早く終了します。ふもとの駅や旅行会社、街のキオスクで乗車券を販売しています。



## 隔離所

ドゥブロヴニクは何世紀にも渡り、海運と商隊交易の要衝でした。ヨーロッパで最も早く検疫の重要性を認識し、旅行者が病気を持ち込むことを防いだ街のひとつです。最初の隔離は40日間続き、(ここから隔離所と名付けられました)、最初の隔離所はムルカン島、そしてツァヴタトの向いにあるポバラ島に作られました。後になってロクルムにも隔離所ができましたが、すぐに廃止されました。1590年には街の東門の岩山の上に、壁で囲まれた中庭付きの家の建築が始められ、1642年に完成しました。この場所はラザレツ 隔離所として知られ、外部から来た商人や船乗りはここに滞在させられました。ここはよく整備された施設で水の供給があり、僧侶や内科医、外科医らが彼らのために多数配備されていました。検疫の規則は厳格に守られました。ラザレツの保存状態は良いですが現在は修復されて様々な芸術品を展示したり、クラフトのワークショップを開催しています。また、学生の主催するリンジョ民族合唱団の公演や若いアーティスト集団の発表の場としても使われています。



## 旧市街の港

ポスコイェ・ミリチェヴィッチ は1440年頃に生まれた才能ある建築家で、わずか26歳の若さで街のエンジニアに任命されました。実際のところ今日の旧市街の港を造り上げたのはパスコイェです。彼がカシュカシエ 防波堤を港の入り口に築き、風や波そして外敵を防ぎました。夜間には聖ヨハネ要塞から港の入り口まで巻上げ機を使って鎖を張り、招かれざる船舶や敵の侵入を締め出していました。ミリチェヴィッチ はゴージオ・ダ・セベニコ のデザインによる新しいオドゥ・ポンテ ゲートの建築も手がけました。港湾にまつわる彼の一連の建築物は16世紀初頭に完成しました。ペスカリヤ (魚市場) やポルポレーラ 防波堤はオーストリア統治の時代に建設されました。港には2つの兵器庫、造船所があり、そのドライ・ドックでは有名なドゥブロヴニク船舶の建造や修理が行われました。そこは今ではアルセナル レストラン (兵器庫跡レストラン) になっています。



# 美術館

## ドゥブロヴニク美術館

入場券には次の施設の入場が含まれます。

旧総督邸や海事博物館（セント・ジョン要塞）、レヴェリン 要塞（考古学研究）、民族学博物館（穴の穀倉）、マリン・ドゥルジッチ 邸、ドゥブロヴニク自然科学博物館

開館時間は施設によって異なります。ドゥブロヴニク美術館の休館日は12月25日のクリスマス、1月1日の正月、そして2月3日のセント・ブレイズ の日です。

## 文化歴史博物館（旧総督邸）

Pred Dvorom 1, tel: +385 20 321 422

文化自然博物館は旧総督邸にあります。かつてこの屋敷にはドゥブロヴニク共和国の政府が置かれ、総督の住まいとしても機能していました。

家具や絵画、コイン、そして16世紀から19世紀にかけて使用されていた日用品が豊富に展示されています。1階には法廷、牢屋、公的事務室があり、ドゥブロヴニクの貨幣、印章、分銅のコレクションが展示されています。中2階には時計のコレクションが、2階には美しい家具、肖像画、制服が展示され、またドムス・クリスティ 薬局の薬品や様々な武器も展示されています。

中央会議室の扉の上には共和国のモットーが掲げられています。「オブリティ・ブリヴァートルム・プブリカ・クラテ」（私事は忘れて公共のことに取りかかろう）。海運の船長であり、慈善事業の後援者でもあったミホ・プラクトプラクトの胸像はP. ジャコメッティ の1628年の作品ですが、この胸像はドゥブロヴニク市民が彼の功績を称えて選んだ唯一の公的モニュメントです。中央大広間は修復され、現在はコンサート会場としても人気があり、とくにサマーフェスティバルのときに賑わいます。



## 海事博物館

海事博物館はセント・ヨハネ要塞の2階と3階にあります。2階の展示場では、ドゥブロヴニクが海運業や造船業でどのように発展を遂げたか、その始まりから陥落までの全体像が見られます。3階では19世紀に海運交易がドゥブロヴニクやベリエシャツ半島で再興された様子が見られ、第2次世界大戦以前、そして以後のドゥブロヴニク汽船艦隊についても展示されています。

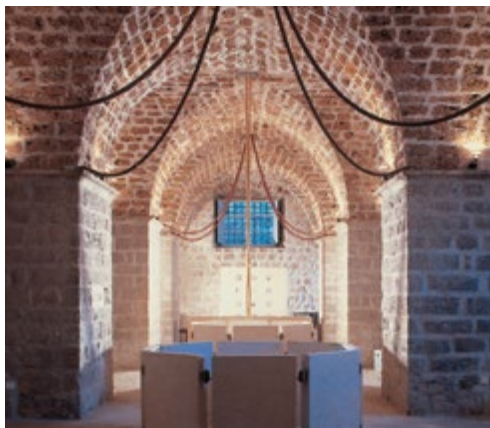




## 民族学博物館は

民族学博物館は16世紀に建てられた穀物倉庫にあります。そこには当時、小麦、大麦、雑穀が保存されていました。「rupe (穴)」と呼ばれる深い地下貯蔵庫が岩盤に掘られ、その内側は防水性のある塗料でコーティングされていました。この貯蔵庫では穀物を常に摂氏17度で保存することができました。保存食品は長期間の包囲・攻撃への備えとして、6ヶ月分備蓄されていました。

2階には当時の経済の状況についての展示や建築物が見られます。3階には農民のコスチュームや手織りの布地が展示されています。



## 考古学博物館－レヴェリン要塞

「ドゥブロヴニク考古学博物館の中世初頭の彫刻作品」展では主に教会内の石造りの調度品、例えばプレロマネスク様式、そして初期ロマネスク様式の祭壇欄干、説教壇、天蓋、聖歌隊ストール、柱、柱頭、門、窓枠、アーチの上部などが展示されています。

そこでは、レヴェリン考古学調査・建築開発・鋳造業の展示があり、の建築方法が見られます。

## マリン・ドウルジッチ の館

[www.muzej-marindrzic.eu](http://www.muzej-marindrzic.eu)

マリン・ドウルジッチは最も偉大なルネッサンス期の劇作家です。彼の館を訪れ、現代的なオーディオ・ビジュアルによる紹介をご覧になり、彼の人生や作品に親しんでください。



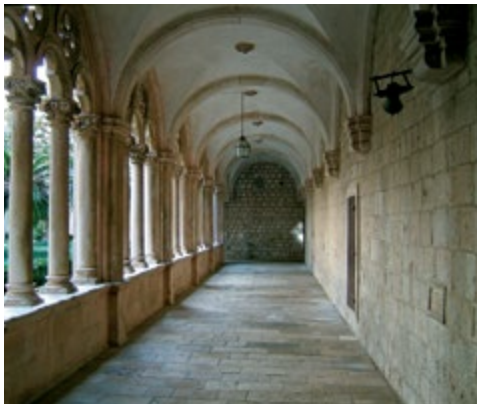
## ドゥブロヴニク自然科学博物館

[www.pmd.hr](http://www.pmd.hr)

ドゥブロヴニクの自然科学分野研究は、1872年に設立されたパトリオ博物館から始まりました。薬学研究者であり船主でもあった アントウン・ドロバツの個人コレクションのほか、様々な展示物があります。

## フランシスコ会修道院

小さき兄弟会の薬局では1317年以来収集された歴史ある品々が、フランシスコ会修道院の回廊に展示されています。良好な状態で保全された調度品や、15、16世紀にイタリア・フランス・オランダからもたらされた陶器類もあります。他にも、様々な圧搾機、モルタル、14世紀の蒸留器、薬草の正確な計量をした処方箋などが展示されています。博物館では他に例を見ない教会音楽の手書きの楽譜や、名も知れぬ画家による価値ある絵画、14世紀の聖人ウルスラの聖遺骨、奉納された宝飾品などが見られます。



## カテドラルと宝物庫

絵画「聖母被昇天」を掲げるバロック様式カテドラルは18世紀に建築されました。元々そこには、12世紀にロマネスク様式のカテドラルがありましたが、1667年の大地震で倒壊しました。ロマネスク様式のカテドラルの建築は、ロクルム島の解説で述べたように、英国の獅子心王リチャード1世の伝説と関連があります。バロック様式のカテドラルの地下にある礼拝堂は、特別に申請をすれば入室が許可されます。カテドラルの宝物庫には、12世紀から19世紀までの182の聖人の聖遺骨が安置されています。数名の聖人や殉教者の遺骨は、金細工師による繊細な細工が施され、貴金属や貴石で飾られています。特に見るべきものはセント・ブレイズの遺骨です。

## ドミニコ会修道院博物館

[www.dominikanci-dubrovnik.hr](http://www.dominikanci-dubrovnik.hr)

ドミニコ会博物館は修道院の地下礼拝堂にあります。様々な展示があるなかでも最も重要なのはボジダレヴィッチやハムジッチ、そしてドブリチェヴィッチ などドゥブロヴニク派画家による15世紀から16世紀の絵画です。他にも奉納された宝飾品、聖遺骨、手書き原稿、初版本、重要書類、何名もの法王からの手紙、ビザンチン様式の聖母子を描いたイコンなどが展示されています。最近修復された、チチアンが描いたセント・ブレイズ、マグダラのマリア、大天使ラファエル、トビアスの絵画も見られます。中央祭壇上にはパオロ・ヴェネツィアーノが14世紀に創った巨大な十字架像があり、特に目を引きま



Turistička zajednica  
grada Dubrovnika  
Dubrovnik  
Tourist Board

Dubrovnik Tourist Board Information Centre  
Info ured Turističke zajednice grada Dubrovnika

**PILE: Brsalje 5, tel/fax: +385 20 312 011**

**info@tzdubrovnik.hr**









PETRA KREŠIMIRA IV

OBODSKA

PULJODUBANKE  
LJAZBOR  
LJAZBOR

# PLOČE

41 LAZARETI

BANJE

51



**Express sightseeing tour** 30 min  
Brza turistička ruta

**North sightseeing tour** 1 h  
Sjeverna turistička ruta

**South sightseeing tour** 2 h  
Južna turistička ruta

**Full sightseeing tour** 3,5 h  
Cjelokupna turistička ruta

\* **Approx. time of the tour. For individual attractions time is not included!**

\* Približno trajanje rute! Vrijeme potrebno za posjetu atrakcijama nije uključeno!

P

49

39

40

TAXI

ATM

ATM

25

24

23

22

8

7

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

## ユダヤ教礼拝堂

### ユダヤ教礼拝堂とユダヤ教博物館

ドゥブロヴニク共和国は1546年以来ユダヤ教徒を受け入れ、やがて旧市街のジュディオサカ通りにユダヤ教徒居住区ができました。1652年には、かつて邸宅であったところがユダヤ教礼拝所になりました。内部はバロック様式で装飾されています。ところどころ変えられてはいるものの、現在も保存状態は良好で、ヨーロッパにおける南欧系ユダヤ教徒の礼拝堂として2番目に古い礼拝堂です。500年にわたってドゥブロヴニクに根づいたユダヤ教徒の歴史の証として、博物館には多数の宗教美術品、古文書、13世紀から17世紀の律法書などが展示されています。ユダヤ教徒居住地区には墓地があり、街の西門の近くには小さな噴水があります。



## シグラタ女子修道院博物館

この博物館へはセレスティーナ・メドヴィチヤ通りから行くことができます。16世紀から19世紀にかけての絵画や礼拝用の品々、14世紀の十字架、18世紀の織機、レース細工、刺繍作品などが展示されています。ほとんどの展示物は、奉納品や修道女たちの手工芸品です。

## ドゥブロヴニク防衛記念館

スポンザ広場にあるドゥブロヴニク防衛記念館には、1991年から1995年にかけてのクロアチア紛争におけるすべての犠牲者の写真が展示されています。

## アッパー角塔 / ミンチェッタ要塞

ドゥブロヴニクのユニークな歴史が公開されました。最近発見されたかつての「工業地帯」はミンチェッタ要塞のすぐ下にあり、15世紀後半にはそこで鑄造業が行われていました。

## クロアチア紛争博物館 - ドゥブロヴニク / インペリアル要塞、スルジュ山

ドゥブロヴニクのクロアチア紛争博物館は、スルジュ山のインペリアル要塞の内部にあります。今もまだ建築の途中ですが、1991年から1995年にかけての残虐な攻撃に対する反撃のシンボルとなっています。博物館の常設展示としては、「1991年から1995年のクロアチア紛争におけるドゥブロヴニク」というテーマに関連した500種類の展示物があります。テーマはいくつかの章に分けられており、最初はドゥブロヴニク共和国の陥落とインペリアル要塞の歴史に

ついで、そして1991年のセルビア・モンテネグロによる侵略、勝利の日、クロアチア軍の動静、市民の受けた被害、民間人の住宅や文化的モニュメントが受けた被害について展示されています。展示品は重要書類、芸術作品、ドキュメンタリー写、印刷物、武器、地雷、爆弾、戦況図、司令、軍隊の備品、包囲されていた間のドゥブロヴニク市民の日常生活の品々、正しい記録や録画テープ、参加した人々の回顧録、スルジュ山で1991年に実際に掲げられた軍旗、地雷地図、戦闘記録などです。ドゥブロヴニク防衛の戦死者名が額に入れられ、要塞の近くに掲げられています。

## ロナルド・ブラウン記念館

[www.ugdubrovnik.hr](http://www.ugdubrovnik.hr)

アメリカ合衆国商務長官であったロナルド・ブラウンの率いる貿易使節団の一行は、1996年4月3日コナヴレで飛行機墜落事故に遭い、使節団員全員が亡くなりました。記念館は事故の1年後に建てられました。記念館にはアートギャラリーがあり、ドゥブロヴニクの20世紀の代表的画家であるアントウン・マスレ、イヴォ・ドゥルチッチ、そして ジューロ・プリティカの作品が展示されています。

## ドゥブロヴニク公文書館

12世紀からドゥブロヴニク陥落までの公文書が保存されており、世界でも非常に重要な公文書館のひとつとなっています。特に重要なのが1272年のドゥブロヴニク成文法原本を含む法律に関する蔵書です。オスマン帝国時代以降の公文書が所蔵されており、その時代の研究資料として世界でも最も充実した資料のひとつです。





# ギャラリー

ドゥブロヴニクには多くのアートギャラリーがあり、アート作品の展示・販売を行なっています。旧市街のギャラリーでは展覧会が開催されます。

## ドゥブロヴニク現代美術館

ここにはクロアチア、ドゥブロヴニクの画家による素晴らしい絵画のコレクションがあります。不定期に展覧会が催され、クロアチアの古典から現代作品までの芸術作品が展示されます。

## アトリエ・プリティカ

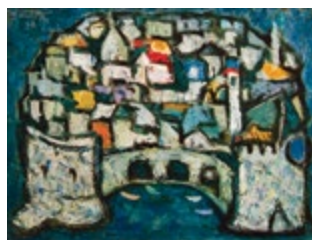
セント・ジョン要塞

## ドウルチッチ・マスレ・フィティカ

## ロナルド・ブラウン記念館

Držićeva poljana bb

tel: +385 20 323 172

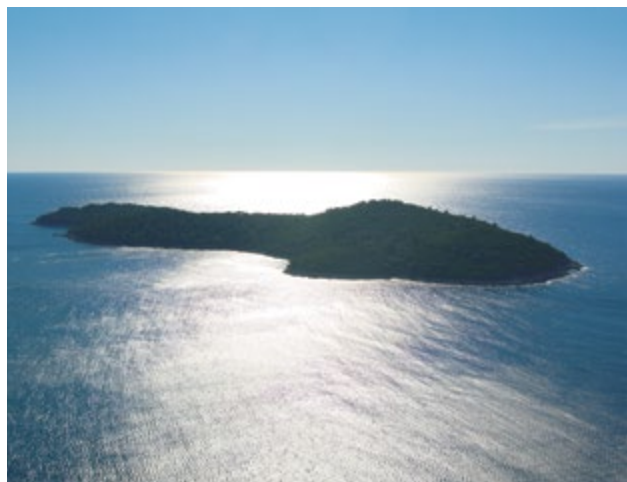




# 街への入り口

## ロクム 島

ロクム 島についての最も古い記録は1023年のもので、ベネディクト会の修道院や僧院設立の証明書があります。伝説では、1192年に英国王、獅子心王リチャード1世がパレスチナへの第3次10字軍からの帰途、ロクム 島の付近で難破し、島に漂着したと言われています。彼は命拾いしたお礼として新たな教会を建てることを約束しました。しかしながらドゥブロヴニクの民衆の希望により、街のカテドラル建築の継続を支援することになりました。1859年にはマクシミリアン・ヴォン・ハプスブルグが島を訪れ、島を買取りました。彼は廃墟となった修道院を夏の屋敷に変え、素晴らしい庭園や散歩道を造りました。ベネディクト会の伝統であった庭づくりや異国の草花の栽培はマクシミリアン・ヴォン・ハプスブルグによって受け継がれ、1959年には植物園が造られました。約2ヘクタールの庭には70種類ものユーカリが植えられ、それはオーストラリア以外の場所では最大のコレクションとなっています。そして853種類以上の異国の植物、453種類の樹木、400種類もの多肉植物が植えられていますが自然保護宣言を行った後、1976年にはユネスコの保護のもと、特別な森林・植物保護地区として認められました。総面積0.7km<sup>2</sup>のうち0.6km<sup>2</sup>には植物が密生しています。156種の鳥が棲息するなど、陸にも海にも多様な生物が生息する自然環境豊かな島として完璧な状態を保っています。鳥が住みついています。中でもロクム 島のシンボルは、マクシミリアン・ヴォン・ハプスブルグが150年前にカナリア諸島から持ち込んだ孔雀です。島には から見ると星の形に見えるロイヤル要塞があり、これは1806年にフランス人によって造られました。そこからはドゥブロヴニクやツァヴタト、周辺の島々の美しい景色を眺められます。





## アクセス

ロクルム 島へは旧市街港から出る船、スカール号またはズリンスキ号に乗り、10分間の快適な船旅の後に到着します。旧市街港からは30分おきに出航します。船着き場で乗船するときには切符を購入できます。第1便は午前9時に出航し、ロクルム 島からの最終便は午後7時、あるいは8時です(季節によって異なります)。島で泊まることは禁じられています。島への船は4月から10月まで運航されます。

## 湖や浜辺

島内の小さな湖は死海と呼ばれています。地下通路で海とつながっていて子供たちや泳がない人たちにうってつけです。泳ぎを楽しみたい旅行者にもびっぴりな浜辺もたくさんあります。島中に分かりやすいサインが掲示されています。浜辺には真水のシャワーが完備されています。

## 冒険好きな人には

島のもう一つの見どころは紫色の洞窟です。名前の由来は、岩を覆っている紫色の海藻です。ここはあまり人々に知られておらず、船で行くか、あるいはヌーディスト・ビーチを抜けていくしかありません。2011年のことですが、当局との話し合いの末、アメリカの人気テレビドラマの受賞番組「ゲーム・オブ・スローンズ」シリーズのロケ地にドゥブロヴニクが使われることになりました。ストーリーの中で、ドゥブロヴニクは王の領地、ロクルム 島はジェイド海のキャースの街となり、シーズン2ではデナーリス・ターガリエンがここを訪れました。撮影の一部は植物園やベネディクト派僧院の遺跡で行われました。

## ビジター・センター

2015年にはビジター・センターで「ゲーム・オブ・スローンズ」の撮影についての展覧会が開かれました。シリーズの撮影風景を収めたビデオが上映され、ドゥブロヴニクやクロアチアの他の場所でどのようにして撮影が行われたかが地図上で分かるように展示されています。

## リエカ湾

オムブラ 川の河口はドゥブロヴニクの西の入り口にあり、ドゥブロヴニク橋の下を流れています。上流の水源にはいくつかの村が半円形に並んでいます。このフィヨルドのような湾は15世紀~16世紀のルネッサンス期にドゥブロヴニクの貴族の夏の屋敷が数軒あったことで知られています。もっとも目立っていて保存状態もよいのはACIマリーナの端にあるソルコチエヴィッチ家の屋敷です。美しい庭や階段があります。マリーナでは一年を通じてドライ・パースが利用できます。オムブラ 川のほとりにあるリエカ湾には様々な種類の鳥が棲みついたり、渡ってきたりしています。ACIマリーナの水辺でコーヒーを飲んでいると、鴨や豪華な白鳥が緑色の川面を滑るところを見られることでしょう。リエカへはドゥブロヴニクのどこからでもバスで行くことができます。



# ムリエト 島

## ムリエト 島

伝説によると、オデッセイは海の女神カリプソに誘惑されてムリエト島へ来たと言われていますが、あなたも同じようにこの島に魅入されることでしょう。島の南にはオデッセイの洞窟があり、運が良ければモンクアザラシが見られます。

この島には歴史的、考古学的、文化的な価値があります。緑あふれる島の西側はムリエト国立公園になっています。グルージュ港から船で1時間、あるいはペリエシャツ半島のストンの近くのプラブラトゥンからフェリーで島に行くことができます。島の主な港はソブラです。人気のハイシーズンにはグルージュからポラチェへの高速双胴船のが運航され、下船後は国立公園行きのミニバスを利用できます。旅行者は自転車や小型自動車をレンタルすることができますが、国立公園内への自動車の乗り入れは禁じられています。ここには手つかずの自然が残されており、海峡の向こうの外海と繋がる美しい大小の湖もあります。大きな湖の中にセント・メアリー島があります。セント・メアリー島には12世紀のベネディクト会僧院があり、小型船のシャトル便で島に行くことができます。また湖の周りには小道があつて岸边には歴史ある松林が影を落としています。国立公園の傍のポメナ港は絵のように美しい場所で、島で唯一のホテルがあります。



## ストーンとペリエシャツ半島

ドゥブロヴニクから西へ1時間ほどドライブすると、魅力あふれるストンの街に着きます。5キロに渡る壁がこの街からマリ・ストーン湾へと続いています。この壁は、14世紀に半島の他の地域からの侵入を防ぐために築かれました。これは中国の万里の長城にも迫る規模の壁です。ストーンは製塩業で広く知られており、2000年以上も前から現在も続いています。ストーン産の塩はドゥブロヴニク共和国に経済的繁栄をもたらしました。

マリ・ストーン湾はここで採れる上質な牡蠣が有名で、牡蠣の養殖も広く行われています。また、全長70キロのペリエシャツ半島で産出されるワインも世界的に有名です。半島の端にあるオレビッチの街までの道中には、ワインテイスティングの楽しめるスポットが各所にあります。コルチュラ島へは短時間のフェリーの旅で行くことができます。この島はマルコポーロの島として知られており1見の価値があります。ドゥブロヴニクからコルチュラ島を巡るには、旅行会社の様々な日帰りバスツアーが用意されています。





## ツァヴタト

ドゥブロヴニクから東へ18キロのところにあるこの街は、市内バスでも旧市街港からの船便でも容易に訪れることができます。この街の歴史は古く、まずはギリシャ人が、その後ローマ人が居住しました。7世紀にはスラブ族によって占領され、住民は小さな街ラウスへと移住しました。そして、そこからドゥブロヴニクの街が育っていきました。

海岸沿いには魅力的な散歩道があり、数多くのコーヒーショップやバー、レストランが並んでいます。曲がりくねった小道を散策したり半島の海辺沿いを散歩することもできます。他の楽しみ方として、ヴラホ・ブコヴァツのギャラリーやイヴァン・メシュトロヴィッチがデザインしたラチッチ家の霊廟を訪れたり、街外れの丘にある森や林を散歩することもできます。



## コナヴレ

ツァヴタトを通り過ぎ、空港のあるエリアがコナヴレです。この谷の周辺は、土地が肥沃で山々からの水も豊かなので、地元産の果物と野菜の大半がここで育てられています。丘の傍に小さな村が点在し、できるだけ農作地を広くすると工夫がなされています。この地には伝統的な絹産業が根付き、現在も受け継がれています。実際に数ヶ所では作業を見学することもできます。コナヴォスキ・ドゥヴォーリは広く知られたオーソドックスな郷土料理のレストランのひとつで、新鮮なマスやラムを蒸し焼きにした料理が楽しめます。また、サイクリングや乗馬、ジープや4輪バギーでの探検も楽しめます。

コトル湾（モンテネグロ）、メジュゴリエ、モスタール（ボスニア・ヘルツェゴビナ）へはドゥブロヴニクから日帰りで行くことができ、旅行会社が多くのバスツアーを企画しています。



## カプリオ・バス（もしくはパノラ・バス）

ドゥブロヴニクのパノラマを楽しめる「カプリオ・ツアー」を催行しています。「カプリオ・ツアー」は東側の旧市街から西側のドゥブロヴニク橋まで、主な観光名所を巡ります。バスの中には9ヶ国語のオーディオガイドが用意されています。バスには、その昔ドゥブロヴニクで人気のある乗り物だった懐かしい路面電車の塗装がされています。カプリオ・バスの乗車券を買くと、その日1日中、市内バスを利用することができます。悪天候の場合、バスが運休することがあります。

Cabrio Bus Information: Libertas d.o.o., tel: +385 20 357 020, fax: +385 20 357 126  
E-mail: [libertas@liertasdubrovnik.com](mailto:libertas@liertasdubrovnik.com), [www.libertasdubrovnik.hr](http://www.libertasdubrovnik.hr)



# 楽しみかた、いろいろ

教会やスポンザ宮殿ではストリートミュージシャン、ダルマチアのボーカルグループ、室内楽アンサンブルの音楽を楽しむことができます。趣のある旧総督邸は世界的に有名な音楽家たちにコンサート会場として愛されています。ドゥブロヴニク・サマーフェスティバルの期間（7月10日から8月25日）は、街の広場でも最高クラスのコンサートが開かれたり、芝居を観られたりします。

街のギャラリーには画家たちの素晴らしい作品が並べられ、テラスやドゥブロヴニクの浜辺で開催されるプログラム、「星空の下のスター」では、暑い夏の夜にカクテルを飲みながらストリートジャズのセッションを夜明けまで楽しむことができます。

海を眺めながらカクテルを楽しむなら、ブージャにある2軒のバーがお勧めです。いずれの店も城壁の外の切り立った崖にあります。

バーの横の階段にちょっと腰を下ろして気軽に飲み物を楽しむのも、地元民の気分を味わえて楽しいものです。

魅力的なディスコやナイトクラブに行けば、光がきらめきリズムに乗った素敵な音楽が流れています。旧要塞にあるユニークで人気の高い文化クラブ、「レヴェリン」では、クラブミュージックが楽しめます。「バーニエ・ビーチ」クラブは旧市街のすぐ外にあり、美しい景色と音楽演奏を楽しめます。ピレには「スカイ・ナイト」クラブがあり若者に人気があります。





# 礼拝に参加するには

4、5日間ドゥブロヴニクに滞在するなら、古い教会の礼拝に参加してその雰囲気を感じたいと思うかもしれません。暑い街中を歩いて疲れたとき、涼しい教会に入るとほっとすることでしょう。ここでは純粋な蠟で作られた黄色いキャンドルを灯したり、運が良ければセント・ブレイス教会のオルガン演奏を聴けるかもしれません。ステンドグラス越しの陽光が教会の中をカラフルに彩ります。

ドゥブロヴニクのほとんど全ての教会で朝の礼拝と夕べの礼拝が毎日行われています。日曜日は7時から12時まで礼拝があり、旧市街の教会の一部では午後にも行われます。街を歩いて時間の検討がつかなくなったとき、信者を教会へ誘う鐘の音の響きが聞こえるでしょう。朝の礼拝は、夏の間は冬期に比べて早い時間に、そして夕べの礼拝はより遅い時間に行われます。また、イエスズ協会では英語による礼拝が日曜日の11時から行われます（6月の第1日曜日から9月の最後の日曜日まで）。礼拝の時間はウェブサイトで調べることができます。

<http://www.dubrovacka-biskupija.hr/portal/>



# ショッピング情報

旅行や休暇に出かけると思い出に残るお土産を買いたくなるでしょう。

伝統的なクロアチアのお土産やドゥブロヴニクのお土産にはシンボルマークが付いています。



ドゥブロヴニクには様々な伝統的なお土産があります。キャラメリゼしたアーモンド、アランチーニー（オレンジの皮の甘煮）、コトニャータ（マルメロチーズ）、逸話のあるブランデー、最高級の赤・白ワイン、石工による優れた作品、金色のオリーブオイル、そして月桂樹とローズマリーの香りのハンドメイド石けんなどがあります。金細工や針金細工、カーニバルの仮面、そして革製品などの伝統的なお土産の制作は、自治体にサポートされています。

エレガントで選び抜かれたデザインな洋服、モダンなデザインのメガネ、スワロフスキーのクリスタルや手作り宝飾品に興味がありなら、旧市街のブティックやドゥブロヴニクのグレージュ地区、ラバドゥ地区にあるショッピングセンターにお越しください。（メルカンテ、ミンチェッタ、DOC ショッピングセンター、ジュバ・ドゥブロヴァチュカ サブ・シティ）

## お土産品

お土産品

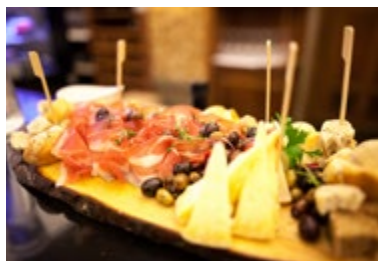
1. 金細工はドゥブロヴニクでも最も古くからある、最もよく知られた交易商品のひとつです。金細工の起源は12世紀にさかのぼり、14世紀、15世紀に最も栄えました。繊細で卓越した



技術で作られた芸術的な金細工品は、この地の貴婦人たちの装飾品として高く評価されていました。レチーニー（イヤリング）、プレー（装飾ボタン）のお土産は、未長く愛されることでしょう。精緻な美しさを誇る金銀の針金細工やサンゴ細工は時代を超えて愛され、そのデザインはあらゆるスタイルのファッションにマッチします。旧市街にあるスタジオでは、現在も昔ながらの方法で伝統的なドゥプロヴニクの宝飾品を製作しています。



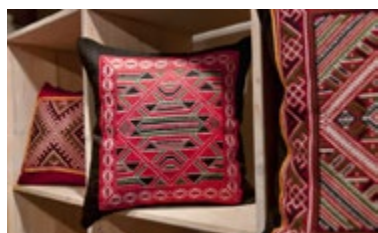
2. ドゥプロヴニクでの休暇を終えるときには、ドゥプロヴニク産の美味しいものをお土産にお持ち帰りください。コトニャータ（マルメロチーズ）、メンタラ（ブドウ汁のチーズ）、アランチーニー（オレンジの皮の甘露）、キャラメリゼしたアーモンド、ドライフルーツ、花の香りのリキュール、葉草入りブランデーなどがあり、こうしたスイーツや飲み物は、今も祖母の代から受け継がれた伝統的なレシピで作られています。強烈な陽光を利用して天日干しされたイチジクは特別な方法で砂糖漬けされています。リキュールは、サワーチェリー、緑のクルミ、イナゴ豆、ビワの実、薔薇の花びらなどをブランデーに漬け込み、糖分を加えて太陽の下で熟成されます。



3. ブラヴァツ・マリワインが生産されるペリエシャツ半島のワイナリーは、クロアチア南部におけるブドウ栽培の地として最も有名で、また世界的にもワイン愛好家によく知られています。海に近い日当たりの良い斜面で栽培されるブラヴァツ種、ディンガチ種、そしてブストゥブ種は大胆で豊かなフレーバーを特徴とし、芳醇な赤ワインになります。ポシブ各種の白ワインはコルチュラ島で産出されます。ドゥプロヴニクの貴族のためのワイン、ドゥプロヴニク・マルヴァジャ（はしばしば「神の果汁」と称されます。このワインはコナヴレで復興されましたが、そこではワイン愛好家から愛される最高クラスの赤・白ワインが生産されています。



4. コナヴレの刺繍作品はドゥプロヴニク地方の女性の民族衣装になくてはならないものです。胴着やカフスに刺繍がほどこされていますが、元々それは絹糸で刺繍されていました。コナヴレでは絹糸を採るために、どこの家でも蚕を大切に育て、絹糸を自然な染料で染めています。そのモチーフは細かな幾何学模様で、シンメトリーが特徴です。きちんとしたシンメトリーな幾何学模様が細かく刺繍されます。使われる色は赤、黒、そして深緑で、それに金色の縁取りを施しました。ドミニコ会修道院の階段部分には、コナヴレの民族衣装を身につけた女性が、しおりやナブキン、テーブルクロスに熱心に刺繍をしている様子が見られます。



5. ガーゴイルの飾られた石工の工房はドミニコ修道院の階段の下にもあり、ドゥプロヴニクでは「マスケロンズ」と呼ばれ、各地に点在しています。そこには、クロアチアの伝統的な模様の作品や、十字架像、ミニチュアの要塞のミニチュアなどが並んでいます。その昔、オリーブオイルを保存していた石の容器は今では花瓶として人気があります。小さな十字架のペンダントにあしらわれた石にはドゥプロヴニクの豊かな陽光が込められており、気の利いたプレゼントになります。

5. ガーゴイルの飾られた石工の工房はドミニコ修道院の階段の下にもあり、ドゥプロヴニクでは「マスケロンズ」と呼ばれ、各地に点在しています。そこには、クロアチアの伝統的な模様の作品や、十字架像、ミニチュアの要塞のミニチュアなどが並んでいます。その昔、オリーブオイルを保存していた石の容器は今では花瓶として人気があります。小さな十字架のペンダントにあしらわれた石にはドゥプロヴニクの豊かな陽光が込められており、気の利いたプレゼントになります。

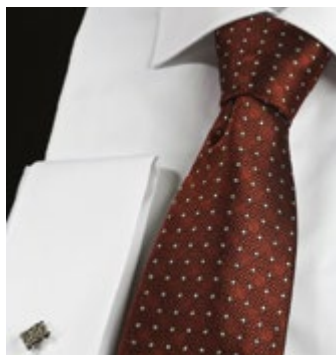
6. ヘルシーな地中海料理の基本はクロアチア南部で生産されるオリーブオイルです。黄金色で特別な香りと豊かな味わいを誇るオリーブオイルは、クロアチアの農園で収穫された旬の野菜を引き立てます。自然の素材から作られた化粧品、香りのよいハーブ、薬草、柑橘類なども家族や友達へのお土産に最適です。マッサージに使われるエッセンシャルオイルはラベンダー、ローズマリー、ハチミツ、レモン、薔薇など、地中海特有の豊かな香りにあふれています。手作りのコールドプレス製法の石けんには、オリーブオイル、椰子、アーモンドオイル、山羊の乳、エッセンシャルオイル、砕いたアーモンドなどの天然素材だけが使われており、ナチュラルな使い心地が楽しめます。



7. フランススコ会修道院の薬局にある化粧品はヨーロッパでも最も歴史ある化粧品のひとつです。現在も200年前と変わらない処方で作られています。ローズウォーター、ローズマリーウォーター、ラベンダーウォーター、金色のクリーム(ミツロウとアーモンドオイル)、ローズオイルの含まれたローズクリーム、ローズマリークリーム、アーモンドローションの入った保湿クリーム、しわを防ぐクリーム(ココアバターとベルガモットオイル)、そしてリップクリーム(ミツロウとバニラ)などがあります。



8. 旅行のお土産としては、アート作品、絵画、彫刻、ガラス器、陶器なども喜ばれます。ドゥブロヴニクの街を歩くと多くのギャラリーがあり、クロアチアのアーティストの作品展を眺めたり、ユニークなアート作品のオリジナルや複製を買うことができます。



アート作品を海外へ持ち出す手続きについては、ギャラリーのオーナーにお問い合わせください。

9. クロアチアといえばチョコレート、といわれるほど有名なスイーツをぜひお試しください。バヤデーラや グリオッテなど、チョコレート菓子やダークチョコレートを扱うメーカーはいくつもあり、いずれも高品質でクロアチアメイドを保証するトレードマークがつけられています。専門店やお土産店で販売されています。

10. クロアチアはネクタイ発祥の地だということはご存知でしょうか。17世紀、クロアチア兵士がフランスで戦ったとき、首に目立つ色のスカーフを巻いていました。これがパリで「クラヴァット」(クロアト-クロアチア人のフランス語読み)として瞬く間に大流行のファッションとなりました。一般の兵士は粗い麻のネクタイを、将校は絹や薄地木綿のネクタイを身に着けていました。専門店や旧市街の店では様々な種類のネクタイ(クロアチア語でクラヴァタ)を扱っており、多くの種類のネクタイ(クロアチア語ではクラヴァタ)が専門店や旧市街の店で売られており、現代的なデザインやなクロアチアの昔ながらのデザインの品々が並んでいます。





# 泳ぎ に行くなら

旧市街の雑踏を歩き回ったあとは、ドゥブロヴニクの美しいビーチで寛ぐのもいいでしょう。1番人気があるのは パーニエビーチで、旧市街のすぐ隣にありロクルム島が眺められます。この小石の海岸からは素晴らしい景色が楽しめ、カヤック、パラグライダー

、バナナボートなどを試すこともできます。のんびり過ごしたいのなら、ビーチに並べられたベッドに横になってカクテルを楽しんでください。ここ以外にも、街や ロクルム島の風景を楽しめる場所があります。古いセント・ジェイコブ僧院の真下に同じ名前の小石のビーチがあり、あまり混雑していません。パビン・クックのビーチ、コバカバーナとカヴァも小石の多い浜辺です。コバカバーナは家族で過ごし、アクティビティーを楽しむのにぴったりです。カヴァではカクテルを味わったり、浜辺でランチをお楽しみくださいよい場所です。ラバドゥ 地区のウヴァラは美しい砂浜です。ウヴァラ遊歩道がすぐ近くにあり、コーヒーや各種飲み物、食事や買い物を楽しむことができます。混雑を避けながら日光浴をしたい人には ラバドゥ 地区のソリチュード ビーチが打ってつけです。そのすぐ隣にはベッドを連れて入れるエリアがあります。街の外に行くのならオラシャツに ハワイビーチがあります。そこからはエラフィテ群島が眺められ、コーヒーショップ、バー、ピザレストランがあります。近隣のビーチとしては ヴェリキ・ジャリ、ザトン、ブラセチネ、トゥルステノ、そしてシュティコヴィツァがあります。それ以外にもたくさん小さなビーチがあるので、気軽に立ち寄って澄み切った海に飛び込んでみてください。

日光浴のできる砂浜がお好きなら、エラフィテ 群島がお勧めです。シバン は小石や岩の海岸ですが、コロチェブ や ロブドゥ なら砂浜が楽しめます。1番大きいのは ロブドゥ にある シュニユ という砂浜です。きっとお気に召すことでしょう。大きなビーチバーでは食べ物や飲み物を用意しています。リラックスしたひと時を過ごしたいなら、旧市街から海を挟んだ ロクルム 島が最適です。ここにはドゥブロヴニクで唯一のヌーディスト・ビーチがあります。島の港の隣にあるポルトチ・ビーチなら、ビキニを着たままアクセスできます。そして島の反対側のデッド・シーや岩山にも足を延ばすことができます。それほど泳ぐつもりがなく、子連れの方には、デッド・シーの小さなビーチをお勧めします。どのビーチに行ってもクリアブルーの海を楽しめ、素晴らしい思い出になることでしょう。



# レクリエーション

## をお望みなら

ロクルム 島 やベティナ洞窟へカヤックで渡れば、戻ってくるときには城壁を主役にした素晴らしい風景をご覧になれます。一部の海域ではダイビングセンターやウォータースポーツセンターが企画した特別ツアーが開催され、神秘的なドゥブロヴニクの海底を探索し、潜水艦が保存された考古学的価値のある場所を訪れることもできます。ラバドゥ では、パビン・クックやラバドゥ 湾、ゴスピノ・ポリエでテニスを楽しむことができます。ドゥブロヴニクの夏の暑い日に1番いいのは、近くのビーチで楽しむことです。透明で温かい海で泳げば、すっかり気分もリフレッシュされることでしょう。他にも、ビーチでベダリングボートやジェットスキーをレンタルして周辺の美しい洞窟を訪れたり、またバナナボート、水上スキー、ウィンドサーフィンを楽しむこともできます。冒険がお好きなら、頂上にセント・ブレイズ教会のあるゴリツァ・スヴェトグ・ヴラハ山に時間をかけて登ることをお勧めします。セント・ブレイズ 祭りの最終日には、人々は旗を掲げて行進し、山頂の教会を訪れます。そこからは街や外海の素晴らしい眺めを楽しむことができます。

ブローチェ の最高級ホテルに泊まるのなら、スヴェティ・ジャコヴ地域での早朝ジョギングやウォーキングをお楽しみください。夕日の沈むころにホテルに戻り、ホテルのウェルネスセンターでマッサージを受けたり、プールで泳いだり、様々なトリートメントをお楽しみください。





時間があればドゥブロヴニクの城壁に登ってみましょう。2キロにわたるこの城壁は街や外海を眺めるのに最適です。海辺のラバドゥ遊歩道なら、ウィンターシーズンにもウォーキングを楽しめます。ラバドゥ湾からネプチューンホテルに至る海辺の遊歩道を歩くと、岩の上に灯台が見え、遠くにはバビン・クック、そしてコパカバーナ・ビーチが見えます。さらに歩くとオルサン・セーリングクラブがあり、フルーツジュースやコーヒーを飲んでひと休みしたり、クラブのレストランで美味しい食事を楽しむことができます。

運動がお好きなら、スルジュ山の登山がお勧めです。頂上からは街全体、周辺の海、外海と島々を一望できます。徒歩でもケーブルカーでもアクセスすることができます。山に登ったらぜひインペリアル要塞もご覧ください。この要塞は、クロアチア紛争の際は防衛のシンボルとして人々を鼓舞しました。改行もっと冒険がしたいなら、コナヴレの美しい田舎町で小型4輪バギーに乗ってみてはいかがでしょうか。ここでは定期的にバギーのイベントが開かれており、免許書なしでもレンタルすることができます。ここでは乗馬もできます。オリーブ畑や林が点在する、11キロにわたる「ブルルート」と呼ばれる道をホーストレッキングしながら

、切り立ったコナヴレ海岸を眺められます。そこからの眺めは格別です。冒険の最中にお腹がすいたら、土地の名産のスモークハムやチーズ、ワインをお楽しみください。

ドゥブロヴニクでのホリデーには、まだまだ他にもたくさんの楽しみかたがあります。大型の魚を釣るゲームフィッシング、ツァヴタトでの昼と夜の釣り、ヨットのレンタル、ストーン製塩場での塩作り体験、コナヴレでのジープ、サファリ、ムリエト島の国立公園でのサイクリングなどが楽しめます。ドゥブロヴニクでは、ゆったりとしたカヤックツアーも人気があります。自然の美しさを満喫し、海から街の景観を楽しむことができます。





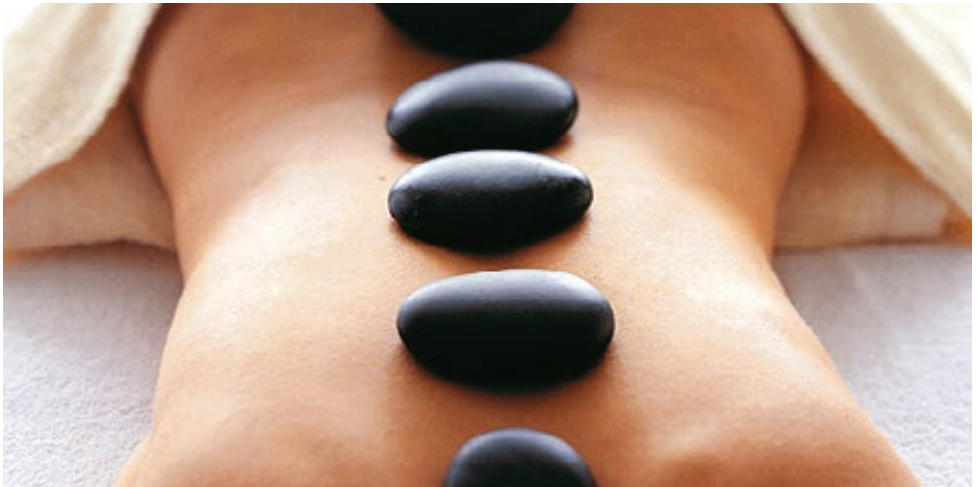
# ウェルネス

心と体のハーモニーの場

水中やジムで運動したり、プールで泳いで体調を整え、十分な体力とエネルギーを回復させる、ドゥブロヴニクではそんな滞在も楽しめます。地中海の香りに満ちた海辺を長い時間散歩し、ホテルのスパでの魔法のようなトリートメントを受ければ心も体も若返ります。古代から受け継がれ、東部地中海沿岸部の昔ながらのメソッドの影響を受けたトリートメントは体内の水分の循環を改善します。

この街は古きものと新しきものが融合し、建築物と自然が調和し、平和と優雅さに満ち、しかも現代の街としての活気に溢れています。

ドゥブロヴニクには最高級クラスのホテルが揃っています、40軒あるあるホテルのうち、12軒は5つ星クラスです。現代の時流に合わせて、ホテルでは最新式のヘルスクラブとスパの設備を備えています。クロアチア国内でも世界的にも、ドゥブロヴニクのヘルスセンターは高い評価を得ています。ミニマルな装飾、選び抜かれた音楽、落ち着いたムードに設えられたトリートメントルームはトルコブルーの海に面しており、ここで質の高いサービスを受けることができます。トルコブルーの海を眺めながら、洗練されて落ち着いた雰囲気を楽しめます。スウェディッシュサウナやミストサウナ、エキゾチックなトルコ風呂、そして東洋式のマッサージやアロマセラピートリートメントなどで心と体のバランスを整え、日々の疲れをリセットすることができます。



# 子供向け のアクティビティー

子どもを連れてダブルロヴニクを旅さるのなら、ラパドゥ やバビン・クック 地区のホテルに滞在することをお勧めします。戸外で遊んだり、ビーチに沿って海辺を散歩したりするほか、子ども向けのアクティビティが充実しています。ラパドゥ 湾 (ラパドゥ) にあるズヴォニミール王遊歩道 (シェトゥニツァ・クラリャ・ズヴォニミラ) は歩行者優先エリアなので、幼い子どもたちが周囲の小さな公園で遊ぶのにうってつけです。おやつときには美味しいアイスクリームやパンケーキが楽しめます。遊歩道のエンターテインメントセンターでは子供たちが楽しめる様々なゲームが用意されており、大きな映画館「シネスター」ではキッズ向けの映画を上映しています。

ラパドゥ 湾には美しい小石の海岸が数多くあり、小さな水上アミューズメントパークが浮かんでいます。ラパドゥ 湾から緑の木立のバビン・クック へ続く道があり、そこではボール遊び、自転車、卓球が楽しめます。屋外のミニゴルフ場もありますので家族でプレーを楽しんでみてください。コパカバーナ・ビーチから 半島の反対側にあるバビン・クック までは歩いてほんの数分です。そこにも水上アミューズメントパークが浮かんでいます。

アドリア海の動植物に興味がある子どもには、旧市街の中のセント・ヨハネ要塞のダブルロヴニク水族館での展示がお勧めです。ダブルロヴニク自然歴史博物館では10カテゴリーのコレクションの動植物が展示され、子どもたちが興味を持ちそうな生花や押し花も見られます。博物館では定期的に教育的なプログラムのワークショップが開かれています。



何世紀にもわたりドゥブロヴニクの子どもたちは街の通りでサッカーをしていました。特にカテドラルの前やセント・ブレイズ 教会の前、そしてドミノ通りでそうした光景を見られます。セント・ローコ教会の正面には1597年からラテン語の格言が掲げられており、そこには「ボールで遊ぶ者たちよ、人生には終わりがあることを忘れることなかれ」と書かれています。

旧市街から10分ほど船に乗ると ロクルム 島に着きます。そこは家族で過ごす

のにぴったりの場所です。デッド・シー 湖 (死海) があり、植物園を散歩すれば、放し飼いの孔雀の鳴き声が聞こえたり、数百種類にも及ぶ珍しい外国産の植物を見ることができます。島の歴史についてのマルチメディアによる解説があり、世界的に有名な「ゲーム・オブ・スローンズ」のロケがクロアチアで行われたときの様子が展示されています。草原のオリーブの木陰でピクニックをすれば、子どもたちは孔雀や野ウサギや亀に出会い、ロバに触ったりもできます。フィールドアスレチックで体を動かすことも可能です。スルジュ山へ登るケーブルカーに乗って、ボサンカのハニー谷(メデナ・ドリナ) で1日をお過ごしください。どもたちは新鮮な空気の中でポニーに乗ったり、子ども公園で小動物に出会ったりすることでしょう。もっと長い時間いられるのなら、コナヴレ での乗馬やサイクリング、自然遊歩道の散策をお勧めします。その他にもドゥブロヴニクの周辺では、エラフィテ 群島、特に美しい砂浜 シュニユのあるロブドゥ、そしてムリエト 国立公園がお勧めです。青く澄んだ海とまぶしい太陽のおかげで子どもたちの体力が養われ、エネルギーが蓄えられる。子どもたちが初めて泳げるようになったり、初めて海に飛び込んだり、初めてカヤックやペダルボートに乗った姿を記念撮影すれば、ドゥブロヴニクの旅はいつまでも心に残ることでしょう。子どもたちはきっとこう言いますよ、「次にまたドゥブロヴニクに連れてってくれるのはいつなの?」





# ドゥブロヴニクの年間行事

## 12月から1月 ドゥブロヴニク・ウィンター フェスティバル

ドゥブロヴニク・ウィンターフェスティバルでは、ドゥブロヴニクの新たな一面がご覧になれます。様々なイベントがあり、魔法のような灯りに照らされた街の、時を超えた芸術的な美しさが味わえます。各種エンターテインメントプログラムが開催され、伝統の香りを添えた色彩豊かな食事、伝統的な習慣が楽しめます。ストラドゥンの世界で最も美しい屋外ステージ

## 2月 セント・ブレイズの祭り

www.dubrovnik.hr  
セント・ブレイズ（はドゥブロヴニクの守護聖人です。972年以来人々はこの日を祝い、祝宴を楽しんできました。この祭りはドゥブロヴニクを代表する行事の一つです。教会でも、それ以外の場所でもコンサートや展覧会が開かれ、関連書籍の紹介、演劇の上演が行われます。聖人ブレイズの像は城壁や門にあり、ドゥブロヴニクの街を見守っています。

## 3月 映画上映中はどうぞお静かに・・・

FB Tišina Molim  
昨年初めて開催されたドゥブロヴニク・フィルムイベントは大変な好評を博しました。特に「事実に基づいたリアリティー」を重視した手法で、ドゥブロヴニクがこの数百年にわたって、フィルムメーキングについてどのように発展してきたをプレゼンテーションしました。去年の大成功を得て、2018年にはさらに皆様を驚かせるような企画が準備されています。

ウィアン農家が観光客をもてなします。その中心となるのは「WiNe ワイン・ツーリスト・ネットワーク」という名のイベントです。ドゥブロヴニクでは「Dubrovnik FestiWiNe」が4月に開催されます。100種類以上のワインが集められ、ワイン愛好家やワイン販売業者に公開されます。この地域のワインは高品質で力強い味わいです。まだ人に知られていないワインもあり、これからますます人気が高まることでしょう。



## 4月 (ダルマチアン・ソングフェ スティバル)

www.aklapela.hr  
アクラペラフェスティバルでは、クロアチアの最高の声楽グループによる正統的な歌唱が楽しめます。フェスティバルの名前はクラツパとカベツラーというふたつの言葉を併せて作られました。ドゥブロヴニクでは様々な音楽フェスティバルが開かれますが、中でもアクラペラはこの国特有のこの国特有の音楽を聴く絶好の機会です。舞台芸術も素晴らしいので、今後ともクロアチアの民族音楽フェスティバルとして注目されることでしょう。

## 4月 ドゥブロヴニク・ハーフマ ラソン

www.du-motion.com  
ドゥブロヴニクの街並みはユネスコ世界遺産です。この新しいスポーツイベントに参加して2キロにわたる城壁を走るとは魅力的な体験です。参加者数には限りがありますが、ドゥブロヴニクの注目すべきイベントです。21.1キロのハーフマラソンはブローチエをスタートしビレを通してグルージュのカンタフィッグまでの登り坂を駆け抜けます。コモラツ・マリナナの近くでターンした後ストラドゥンがゴール地点です。

には、クロアチアで最も人気のある歌手が登場します。大晦日のパーティーには、この地のスターディノ・メルリンの登場する見ごたえのあるコンサートが開催されます

## 2月 ドゥブロヴニク・カーニバル

www.tzdubrovnik.hr  
「私たちの祖先は楽しんだものです、それなら私たちも...」これは2月のドゥブロヴニク・カーニバルでよく聞かれる格言です。カーニバルの期間は羽目をはずすことが許されるので、人々は自分以外の誰かになりすまして大いに楽しめます。ドゥブロヴニクのカーニバルはジョークや大笑い、陽気さ、風刺に満ちています。ぜひこの特別なドゥブロヴニクをお楽しみください。

## 2018年4月 ドゥブロヴニク春の音楽祭

www.dso.hr  
ドゥブロヴニク・シンフォニーオーケストラによる新たな音楽祭です。4月には次々とクラシック音楽の演奏会が開かれ、ドゥブロヴニクの文化的イベントを充実させます。

「レース以上の体験」をモットーとして、この新しいイベントは計画されました。健康的なライフスタイルを目的としたスポーツイベントに留まらず、ランナーはクラツパの歌声と守護聖人セント・ブレイズの祝福に守られて、世界遺産であるドゥブロヴニクの歴史的モニュメントを鑑賞することができます。

## 1月から2月 ドゥブロヴニク・フェスタ

数日間続くこのお祭りは、セント・ブレイズの記念日、そしてドゥブロヴニクの街の記念日のころに毎年開かれ、公的な祝祭プログラムが行われます。

## 4月 ドゥブロヴニク・フェス ティバル

www.dubrovnikfestiwine.com  
ドゥブロヴニクとドゥブロヴニク・ネレトウヴァ地区には毎年何千人ものワイン愛好家がワインセラーを訪れ、

## 6月 オルランド・フリオーソ パロ ック音楽団

http://web.dso.hr/hr/  
ドゥブロヴニク・シンフォニーオーケストラによるパロック音楽演奏会が6月に開催されます。





## 6月 劇場での小規模なフェスティバル

www.lepetitfestival.com  
このフェスティバルは小規模ですが、世界中から招かれたアーティストによる注目のべき文化イベントです。毎年このフェスティバルには、詩人、俳優、舞踏家などの選ばれた才能溢れるアーティストが登場します。

## 6月 音楽祭

www.anaugradu.com  
この音楽祭は週末に開かれ、独特の音楽スタイルの才能ある若手チェロ奏者であるアナ・ツルネルが登場します。クラシックとクロスオーバーインストルメンタルの両方の音楽を楽しむことができます。フェスティバルは夏至の日である6月21日(世界音楽の日)の夜明けとともに始まります。スルジュ山に昇る朝日を眺めるユニークな体験が楽しめます。

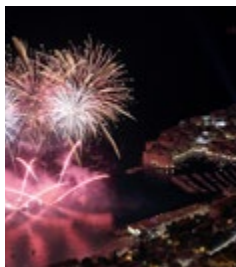
## 6月から7月

**真夏の舞台**  
http://midsummer-scene.com/  
は長年続けられている英語による演劇祭です。ドゥブロヴニクで最も美しい雰囲気のあるセント・ローレンス要塞が会場です。ここではシェイクスピアの良く知られた演劇が英国人・クロアチア人の舞台俳優によって共演されます。

## 6月から7月

**ドゥブロヴニク国際オペラフェスティバル**  
www.dubrovnik-opera-festival.com

20世紀初頭にヨーロッパや全世界で有名だったテナー歌手 ティノ・パティエラを記念したフェスティバルです。「ティノ・パティエラ記念オペラ・アリアフェスティバル」はもうひとつの街のオペラ祭として続けられ、ドゥブロヴニクのオペラの人気を高めています。すぐれた作曲家による美しいオペラ作品が公開され、人々を楽しませていきます。



## 7月から8月 ドゥブロヴニク近郊の夏のイベントプログラム

www.tzdubrovnik.hr  
ドゥブロヴニク市と観光協会は何年にもわたり、長年にわたり愛されてきた地中海の音楽、民族音楽、民族色豊かな伝統を楽しむ音楽エンターテインメントプログラムをエラヒティ群島、ザトン、オラシャツで開催することを検討しています。観光に来られた方々は伝統音楽を聴いて夏を満喫されることでしょう。今年の夏には、ダルマチアン歌謡グループによる歌、民族音楽演奏、クラシック音楽コンサート、クロアチアの音楽アーティストによる演奏がコロチェブ、ロブドゥ、ザトンとシバン、そして

オラシャツの民族フェスティバルで開かれる予定です。

## 7月から8月

### ドゥブロヴニク・サマーフェスティバル

www.dubrovnik-festival.hr  
クロアチア全土においても、そしてドゥブロヴニクにおいても、ドゥブロヴニク・サマーフェスティバルは最も盛大なフェスティバルです。1950年から始まり毎年7月10日から8月25日まで開催されます。

## 7月から8月

### ウォーターポロ リーグ戦

www.divljaliga.hr  
ドゥブロヴニクのビーチでは、世界で最大規模のアマチュア・ウォーターポロ・チャンピオン戦が開催されます。40チーム以上の参加があり、7月初めからリーグ戦がスタートします。

## 8月

### シバン 夏の映画祭

http://sipan-film.com/  
シバン 島では毎年夏になると映画学校と映画祭のイベント「シバン夏の映画学校」が開かれます。映画作品、参加者、ゲストに、ドイツ、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、スロヴェニア、英国から迎える国際色豊かなイベントです。シバン港でのフェスティバルはドゥブロヴニク市の後援を受けて8月4日から14日まで開催され、選ばれた10本の映画が上映されます。「シバン夏の映画学校」はダルマチアン群島の事情により冬の間は閉ざされていますが、夏になると島民は映画を通じて世界中の人々と交流します。シバンに住む子供たちは、ヨーロッパや世界各地からやってくる人々と親しくなり、クリエイティブな才能を養う機会に恵まれています。

## 7月から9月

### 夏の終わりの音楽フェスティバル

www.dso.hr  
9月中旬まで続くこの新たなフェスティバルは、ドゥブロヴニク・サマーフェスティバルが閉幕した後、ユネス

コ世界遺産であるこの地に音楽や文化が栄え続けるようにと、ドゥブロヴニク・シンフォニーオーケストラが近年になって企画しました。

## 9月

### クロアチア産ジャムとマーレードのフェスティバル

http://desa-dubrovnik.hr/  
クロアチアには保存食作りの文化・伝統があり、このフェスティバルはセント・ブレイズ 教会の前、ストラドゥンで開かれます。クロアチア全国各地の人々が、それぞれの出身地の民族衣装を身に付けています。商品は一般の買い物客にも、そしてレストラン関係者も販売します。この商品は土地の御馳走料理やレストランの料理を豊かにするの役に立っています。(商品は一般の買い物客にも、そしてレストラン関係者に向けても販売され、土地の御馳走料理やレストランの料理を豊かにするの役に立っています)

## 9月から10月

### 秋の音楽祭

www.dso.hr  
ドゥブロヴニク・シンフォニーオーケストラは秋の演奏会を開きます。新たに秋にちなんだ曲目を用意し、たくさん曲をお楽しみいただけます。

## 10月

### ラバドゥ テニスコートにてテニス試合

ITF 男子・ITF女子テニス試合  
ドゥブロヴニクで最も有名なスポーツイベントのひとつがテニスです。クロアチア、ヨーロッパ出身のテニス選手はプロとしてのデビュー戦をここで迎えます。若い世代の選手が輩出されることで定評があり、多くのテニス選手、テニスファンから注目されています。

## 10月

### 美食のフェスティバル

www.tzdubrovnik.hr  
ドゥブロヴニク観光局が主催するこのユニークなフェスティバルでは、多くの新しい料理が発表されてきまし

た。秋の季節、10月にここを訪れる観光客に特別に賞味していただきたい、土地の人々も楽しむ人気のある料理イベントです。美食のフェスティバルでは、この地方ならではの伝統的な料理を披露したり、子供たちのための食育プログラム、地方のワインのテイスティング会や料理教室が開かれます。「有名なシェフとディナーを一緒に」というイベントや、ドゥブロヴニクの特別な御馳走の作り方や、レストランの特別料理の作り方を体験する機会もあります。

### 12月から1月 ドゥブロヴニク冬のフェスティバル

www.tzdubrovnik.hr  
冬のフェスティバルでは、ド

ゥブロヴニクとその周辺で、面白くて文化的な楽しいイベントや、美食や芸術を堪能するイベントなどの様々なプログラムが用意されています。ベスカリヤ、ストラドゥン、ピレそしてラザレーティのように、他にはない古くからの歴史ある場所が、ホリデーらしいイルミネーションで飾られ、いつもとはまるで異なる雰囲気になります。フェスティバルではいろいろなイベントが開催されます。子供たちをスケートリンクやクリスマス物語のショーに連れて行きましょう。香料入りのホットワインで温まり、クロアチアスタイルのドーナツもお試ください。劇場やギャラリー、美術館を訪れてドゥブロヴニクの伝

統的な甘いお菓子の作り方を習ってみてください。

### アドベント(キリスト降臨祭)

www.dubrovnikwinterfestival.com  
キリスト降臨祭は最初のアドベントキャンドルを灯すことから始まります。人と分かち合うこと、その精神がこの時期のドゥブロヴニクではよく見かけられます。今年のクリスマスマーケットは美しいストラドゥンで開かれる予定です。そこでは伝統的なクラフトやクリスマスの飾り、伝統的なクリスマスケーキやお菓子が並べられます。伝統的なホリデーソングを歌ってごらん下さい。幸福で

楽しいホリデーを祝うドゥブロヴニクコレンダ(聖歌)は、大昔からクリスマスイブや大晦日に歌い継がれています。

### 大晦日

12月31日、大晦日の朝から始まる壮大な音楽のプログラムと共に新年を迎えることでしょう。お正月には3日間にわたって様々なイベントがあり、きっと興味を惹かれることが見つかるはずですよ。新年は恒例の10キロレースで幕開けし、ドゥブロヴニク・シンフォニーオーケストラの特別コンサートがあります。お正月のランチにはオイスターとシャンパンをお楽しみください。

## 重要な連絡先

### ドゥブロヴニク・ツーリストセンター

Brsalje 5  
tel.: +385 20 312 015  
fax.: +385 20 323 725  
e-mail: info@tzdubrovnik.hr  
www.tzdubrovnik.hr

### ツーリスト・インフォメーションセンター

ピレ Brsalje 5  
tel. +385 20 312 011  
e-mail: ured.pile@tzdubrovnik.hr

### グルージュ

Obala Ivana Pavla II., br. 1  
Tel/Fax: +385 20 417 983  
email: ured.gruz@tzdubrovnik.hr

### ラパドゥ

Masarykov put 2  
Tel/fax.: +385 20 437 460  
e-mail: ured.lapad@tzdubrovnik.hr

### ザトン

Zaton Veliki 2  
tel./fax.: +385 20 891 230  
e-mail: ured.zaton@tzdubrovnik.hr

### ロブドゥ

Obala Iva Kuljevana 12  
tel/fax.: +385 20 322 322  
e-mail: ured.lopud@tzdubrovnik.hr

### シパン

Luka b.b., Luka Šipanska  
tel/fax.: +385 20 758 084  
e-mail: ured.sipan@tzdubrovnik.hr

## 重要な電話番号

インフォメーション	18981
国内番号調べ	11888
国際番号調べ	11802
天気予報・道路情報	18166
クロアチア自動車クラブ	1987
ロードアシスタンス	1987
レッカーサービス	+385 20 111 016
	+385 20 312 266
国家保護、救援センター	112
クロアチア山岳救助	
	+385 91 112 92 00
警察	192
消防隊	193
救急車	194
ドゥブロヴニク病院	
	+385 20 431 777
総合病院	+385 20 416 866
監視庁	+385 20 443 333
海軍警察	+385 20 443 555
警察交通課	+385 20 443 666
税関	+385 20 772 000
ドゥブロヴニク空港	
	+385 20 773 377
バスターミナル	060 305 070
港湾局	+385 20 418 988
港湾庁	+385 20 313 333
マリナー・ドゥブロヴニク	
	+385 20 455 020
リベルタス	+385 20 357 020
市内バス	
ヤドゥロリニヤフェリー	
	+385 20 418 000

### ドゥブロヴニク市

+385 20 351 800  
ドゥブロヴニク・ネレトウヴァ郡  
+385 20 351 400  
郡観光局  
+385 20 351 82  
ツーリスト・インスペクション  
+385 20 351 048

### ドゥブロヴニク・ネレトウヴァ郡観光局

Šipčine 2  
tel.: +385 20 324 999  
fax.: +385 20 324 224  
e-mail: info@visitdubrovnik.hr  
www.visitdubrovnik.hr

## 祝日

1 January 新年  
6 January 公現日  
22 April 2018 復活祭  
23 April 2018 イースター・マンデー  
1 May メイ・デー  
20 June キリスト聖体節  
22 June 反ファシスト闘争記念日  
25 June 国家の日  
5 August 勝利と国土感謝の日  
15 August マリア昇天祭  
8 October 独立記念日  
1 November 万聖節  
25 December クリスマス  
26 December 聖ステファンの日

## 店舗の

## 営業時間

大半の店が年間を通じて午前8時から午後8時まで、月曜日から土曜日まで営業しています。ほとんどの店は夜8時まで開いています。特に旧市街のお土産店は遅い時間まで営業しています。大半の店は日曜日と祝日は休みますが、夏の間、旧市街のお土産店は日曜日や祝日も営業しています。街のどの地域の食品店も、日曜日は朝から午後2時まで営業しています。病院や空港の中、港付近のバスターミナルにある店、そしてキオスクやパン屋は日曜日でも営業しています。グルージュでは屋外の朝市が開かれ、花屋は午後まで開いています。旧市街の朝市は正午まで開いています。ドゥブロヴニク地区のガソリン・スタンドは午前7時から午後10時まで営業しており、夏期には真夜中まで開いています。クパリヤコモラツのガソリン・スタンドは24時間営業です。



ドゥブロヴニク・リビエ  
ラの観光情報パンフレッ  
トの情報は2018年1月  
のもので、ご旅行前に  
最新情報をご確認くだ  
さい。



**お体の不自由な方へ**  
城壁の内側にある政府の機関はバリアフリー化されています。美術館、教会などを訪れたときに階段の昇降に手助けが必要な場合はこちらへ電話してください。+385 98 915 2834  
車椅子運搬車両の大半は、通常サイズの車椅子が載せられます。また運搬車両の貸し出しも行っています。運搬車両のサービスは無料ですが、ドゥブロヴニク多発性硬化症協会にご寄付をお願いしています。何かございましたらこちらにご連絡ください。  
ドゥブロヴニク多発性硬化症協会  
+385 20 425 086  
e-mail: dms\_dubrovnik@sdmsh.hr





# GOOD FOOD

Festival

Dubrovnik 2018

18 - 21 OCTOBER



## TASTE THE BEST OF OUR LOCAL CUISINE!

**Don't miss!**

dinner with a famous chef | festival menus | visiting cuisines  
traditional dishes | tastings | workshops | presentations | a food fair  
gastro tours | entertainment | live music



Turistička zajednica  
grada Dubrovnika  
Dubrovnik  
Tourist Board

[www.tzdubrovnik.hr](http://www.tzdubrovnik.hr)